友の会20年のあゆみ

平成13年5月～令和3年3月

令和3年(2021)4月

江戸東京博物館友の会

目　次

「友の会20年のあゆみ」刊行に際して ● 1
1．友の会設立までの経緯 ● 2
2．歴代役員 ● 3
3．友の会規約の変遷 ● 4
4．会員数の推移と定期総会・記念講演 ● 7
5．各種事業の記録 ● 9
（1）概要 ● 9
（2）友の会セミナー ●12
（3）古文書講座 ●20
（4）見学会 ●23
（5）観覧会（内覧会、特別観覧会） ●26
（6）創作講座 ●29
（7）えど友研究発表会 ●29
（8）学習会（地域文化探訪） ●30
（9）その他（特別企画） ●30
6．古文書翻刻事業 ●31
（1）町方書上翻刻プロジェクト ●31
（2）館蔵古文書翻刻プロジェクト ●32
『町方書上』寄贈先等一覧 ●33
7．会報『えど友』（Web版を含む）のあゆみ ●34
◆創刊号～60号（平成13年7月～平成23年3月）
（1）主なできごと ●34
（2）新春特集 ●36
（3）連載企画 ●37
◆61号～119号（平成23年5月～令和3年3月）
（1）トップ記事・トピックス ●38
（2）連載企画 ●41
8．創立周年記念事業 ●44
（1）5周年記念事業 ●44
（2）10周年記念事業 ●44
（3）15周年記念事業 ●45
（4）20周年記念事業 ●45
9．開館10周年、15周年および20周年記念品贈呈 ●46
（1）開館10周年記念品贈呈 ●46
（2）開館15周年記念品贈呈 ●46
（3）開館20周年記念品贈呈 ●47
10．えど友サークルの活動 ●48
11．会員からの意見・要望とその対応 ●52
12．非常時における友の会の対応 ●59
13．メディアによる紹介記事 ●60
14．今後の課題 ●62
あとがき ●63

※表紙にあるマークは、平成24年2月制定の友の会シンボルマーク（デザイン・藤井文乃さん）

「友の会20年のあゆみ」刊行に際して

江戸東京博物館友の会は平成28年度に「友の会15年のあゆみ」を刊行しました。それから5年、この度「友の会20年のあゆみ」を刊行します。今回の試みは「友の会15年」に、それに続く5年を加え、会の事業の実績を記録し、今後の運営に役立てようと考えたものです。

5年前といえば、国内は東京オリンピック・パラリンピックの話題で盛り上がり、平成24年末、第2次安倍政権の経済政策への期待が大きく、打ち出された「アベノミクス」に裏付けされた時代でもありました。この間、「友の会」は順調に推移し、事業内容の充実がはかられました。一方で、平成29年10月から平成30年3月まで、博物館改修工事のため、全館休館となり、「古文書講座」、「友の会セミナー」などは、館外施設を借りての活動となり、これは、最初の大きな障害となりましたが乗り越えて行きました。

令和2年に入り、全世界で「新型コロナウイルス感染症」が蔓延し友の会活動も大きな影響を受けました。3月にはすべての「友の会活動」が中止になり、4月7日に「緊急事態宣言」が発出され、5月31日まで延長されました。この間、古文書講座をはじめ、見学会、セミナーなどは中止・延期を余儀なくされました。令和3年を迎えた今も蔓延は続いているため、「新型コロナウイルス感染拡大防止」のガイドラインを厳守しつつ事業活動を進めています。すべての「友の会会員」の皆さまには大変なご心配・ご迷惑をおかけいたしますが、何卒、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

今回の「友の会20年のあゆみ」はまさに、「江戸博友の会」・「すべての友の会会員」と「新型コロナウイルス」との―終わりなき闘い―の軌跡であり、熱い思いの証でもあります。

この「友の会20年のあゆみ」の作成に当たっては、広報部会を中心に、事業部会・総務部会そして翻刻チームの皆様にご尽力いただきました。誠にありがとうございました。皆様に感謝申し上げます。

令和3年3月　江戸東京博物館友の会会長　林　正信

1　友の会設立までの経緯

友の会の設立、発足は平成13年5月ですが、そこに至るまでにはかなり周到な準備・検討が行われました。そのことに関してはあまり知られていませんので、以下簡単に経緯を記し、関係者や先輩たちの労苦に思いをはせるとともに、こうして私たちが「えど友」ライフを楽しんでいられるのもそのお蔭であると感謝したいと思います。

もともと江戸博では開館当初から何らかの形の友の会を設立する構想があり、上部組織の東京都歴史文化財団の各館それぞれに適した友の会を設立するとの方針を受けて、江戸博でも平成11年ごろから表立った検討が開始されました。具体的に動き出した以後の主な経過は次のとおりです。

年　月　日	経　　緯	備　　考
平成5年　3月28日	江戸東京博物館開館	
平成10年8月	ガイドボランティア制度本格実施	平成9年10月から試行
平成11年9月ごろ	友の会設立準備委員会　委員募集	10月10日締切
11月19日	第1回友の会設立準備委員会開催	委員12名、事務局3名で発足 委員会の進め方、検討事項の提示、基本的な性格、特典内容（会費、入館料、各種割引など）の検討
12月17日	第2回友の会設立準備委員会開催	基本的な性格、入会事務（会員の種類、会員証、更新）の検討
平成12年1月21日	第3回友の会設立準備委員会開催	会の事業（事業計画、会報作成、年間計画）の検討
2月21日	第4回友の会設立準備委員会開催	会の運営（事務局、事務業務、発送作業、備品消耗品）の検討
3月17日	第5回友の会設立準備委員会開催	総括、基本的には「サービス提供型」でなく「自立型」の会を目指すこととなる
この間	基本事項（方針・性格）の検討と確定 個別関係先との調整など	ショップ、テナント、企画展共催者など
9月ごろ	友の会発起人の募集	10月末締切
11月　7日	発起人の決定	応募者（8名）に館長名で決定通知
11月22日	第1回発起人会開催	発起人会代表に山本市郎氏を決定
12月7日	第2回発起人会開催	他館の類似友の会を参考に規約案を検討
12月18日	第3回発起人会開催	会員の募集、管理などを検討
平成13年1月8日	第4回発起人会開催	上記のほか、設立発起人総会の開催を決定
1月29日	第5回発起人会開催	規約の承認、役員の選出（以後本格的に進めていくという意味で、設立発起人総会の形で開催）
2月13日	第6回発起人会開催	博物館との協定書などを検討
2月26日	第7回発起人会開催	案内パンフレット、会員証を検討、総会日程決定
3月12日	第8回発起人会開催	名刺の扱い、事務局長を決定、総会準備を検討
3月28日	第9回発起人会開催	以後、総会に向け詳細事項検討のため、さらに頻繁に発起人会を開催
4月	会員募集開始	
5月19日	友の会第1回総会（設立総会）開催	出席者99名、発足時会員数577名

2　歴代役員

友の会の設立、発足（平成13年5月）からの歴代役員は以下のとおりですが、これらはいずれも総会時に承認されたリストに基づくものです。役員の選出は2年に1回なのですが、総会で承認されたあと、再就職など仕事上の理由、ご本人の健康上の事情、ご家庭の事情などいろいろな事情で辞任される方がいて、翌年の補充となっています。また実際には運営上翌年の補充まで待てず、担当の変更を行ったり、緊急の代行者が役員の機能を果たしたりしたこともありました。こうした事態を受け、平成22年5月の規約改訂の際、必要な場合には役員会で補充役員を選出可能（次の総会で追認）としました。

年　月	会長	副会長	事務局長	会計	運営委員（無任所）	監事	（事務局員）
平成13年5月 （発　足）	山本市郎	佐山　彪	佐山　彪	川島幸雄 栗國ゆう子	大谷善四郎 大松騏一 山口千恵子	山下　卓 佐藤扶美子	
平成14年5月 （補　充）	山本市郎	佐山　彪	佐山　彪	川島幸雄 鈴木克之	山口千恵子 大松騏一 井上邦夫	山下　卓 大谷善四郎	
平成15年5月 （定　期）	山本市郎	佐山　彪 大松騏一	岩松　精	管林義隆 小笠原淑夫	黒瀬雅博、山口千恵子 松原　良、菅沼和男 岩松　精、藤永昭彦	川島幸雄 大谷善四郎	（藤井啓子）
平成17年5月 （定　期）	岩松　精	藤永昭彦 松原　良		管林義隆 玉木達二	芦沢陽雨山、後藤幸子 安西　洵、菅沼和男 岡橋園子、谷岡文彦 川辺愛子、伴野睦雄	井波良子 畠中　勇	（藤井啓子）
平成19年5月 （定　期）	玉木達二	藤村武雄 大石憲一 後藤幸子	清水昌紘	林　義之 岡東和子	下永博道 岡橋園子 藤井文乃	井波良子 畠中　勇	（藤井啓子）
平成20年5月 （補　充）	玉木達二	藤村武雄 佐藤幸彦 後藤幸子	清水昌紘	鈴木　寛 岡東和子	下永博道、上田太一 岡橋園子 藤井文乃	井波良子 畠中　勇	（堀井なつ恵）
平成21年5月 （定　期）	松原　良	藤村武雄 清水昌紘	清水昌紘	岡東和子 末永俊幸	小林弘明、深尾恵美子 西村英夫、鈴木　寛 野川陽一、藤井文乃 福島信一、津嶋靖弘	早川良躬 松岡勝彦	（堀井なつ恵）
平成23年5月 （定　期）	松原　良	下永博道 福島信一 内匠屋京子	末永俊幸 24年2月～ 大澤憲一	西村英夫 中村貞子	小林弘明、小西幸男 深尾恵美子、佐藤美代子 寺田萬企代、新倉隆一	早川良躬 松岡勝彦	（京極裕希子） （宮嶋直恵）
平成25年5月 （定　期）	畠中　勇	内匠屋京子 中村貞子	下永博道	大澤憲一 前田太門	内田勝元、五十島正修 佐藤美代子、田端道宏 寺田萬企代、片子澤宏 新倉隆一、26年4月～ 分部祐治、谷口幸二	川田明良 松原　良	（宮嶋直恵） （岡野勝代）
平成27年5月 （定　期）	畠中　勇	小林弘明 前田太門 辻井　桜	柏原典雄	菊池真一 並木　愛	林　正信、川上由美子 岡本　脩、分部祐治 松原明子、丹羽高利	川田明良 松原　良	（岡野勝代） （吉川絵美）
平成29年5月 （定　期）	早川良躬	林　正信 菊池真一 松原明子	柏原典雄	並木　愛 内匠屋京子	川上由美子、国定美津子 岡本　脩、中村貞子 鈴木正文、鈴木とき子 平川亮一	畠中　勇 小笠原広樹	（岡野勝代） （吉川絵美）
平成30年6月 （異動・補充）	早川良躬 （途中辞任） 林　正信 （代行）	林　正信 菊池真一 松原明子	柏原典雄	並木　愛 内匠屋京子	川上由美子、国定美津子 岡本　脩、中村貞子 秋広澄江、鈴木とき子 平川亮一	畠中　勇 小笠原広樹	（吉川絵美）
令和元年5月 （定　期）	林　正信	待場　浩 前田太門 秋広澄江	前田太門	日比雅明 内匠屋京子	国定美津子、中村明義 中村貞子、鈴木とき子 髙田利正、上野庸子 平川亮一	畠中　勇 小笠原広樹	（吉川絵美） （中村　都）

3　友の会規約の変遷

友の会規約は平成13年1月29日に施行され、20年間で6回改訂されています。各々の改訂事由などを以下にまとめました。もとより専門家が立案したものではないので、法体系的にはまだまだ不備な点もあろうかと思いますが、会を運営していく上での問題点を少しずつ解決してきた経緯をご覧いただき、将来への糧としていただければよいのではないかと思います。

年　月　日	主　な　改　正　点	改　訂　事　由　な　ど
平成13年 1月29日	○発足当初の規約	○発起人会で検討、まとめたもの。
平成14年 5月21日	○発足総会から1年間の運営実績を踏まえて若干の修正、整備	○想定に基づいて定めた規約を実際の運営に合わせた。
平成16年 5月28日	○「会員の活動は無償とする」を追加	○見学会のガイドに関して、報酬（1回3万円）を要求する会員がいて、その扱いを検討する過程で「無償」であることを規約に明文化することとした。
	○事業に「自主的サークル活動の支援」を追加	○「えど友サークル」制度のスタートを視野に入れたもの。
	○役員の定数等の条文整備	○役員に含まれていた監事を別枠とした。 ○役員数の上限を15名と決めた。 ○役員会での役職の決め方を互選と明文化した。
	○役員等の選任に関する条文整備	○選任手続きのみの規定だったので、選考基準を追加した。 ○役員と監事の兼任禁止を明文化した。
	○役員等の職務の条文追加	○会長事故あるときの代行について副会長のあらかじめの順位づけを追加した。
	○役員等の任期の条文追加	○任期満了から後任者就任までの間の職務遂行義務を追加した。 ○不祥事を起こした役員等の解任規定を追加した。
	○総会および役員会の条文整備	○総会の審議内容を整理し、定足数の規定、欠席者への対応を追加した。 ○役員会の審議内容に「総会の議決した事項の執行に関する事項」を追加した。
	○部会設置に関する規定を追加	○会の運営が各部会に支えられているにも拘わらず、部会についての規定が規約になかったため追加した。
	○事務局に関する条文整備	○事務局についての必要な事項は会長が別に定める旨を追加した。
平成19年 5月25日	○会員の特典の②特別展の観覧料の同行者は何名でもを1名に訂正	○もともとの誤りが気付かれずにいたもの。
	○各条の項目表記方法などの整備	○各条の2項、3項等の2，3等は、各条と頭をそろえ、内容を列挙する1, 2, 3…や⑴⑵⑶…は、① ② ③…に統一した。 ○誤字を訂正した。
	○第9条タイトルの適正化	○内容に合わせ、（部会の設置）を（部会および事務局の設置）と修正した。

年　月　日	主　な　改　正　点	改　訂　事　由　な　ど
平成22年５月28日	○（以下博物館という）を初出に移動	○第３条から第２条へ移した。
	○会員の活動は無償に「原則として」を追加	○報酬ではないが、見学会下見の交通費支給等のため追加。見学会のみならず、セミナー、特別観覧会などすべての事業で、企画担当責任者をはじめ全担当者が参加費を払っている。そのため、せめて下見の交通費位は会で負担してもよいのではないか、となったことによる。
	○部会名の明記、それに伴い第４条タイトルの適正化	○部会を設置できるというだけの規定だったので、この際３部会の名称（事業、広報、総務）を明記することにした。これに伴い第４条のタイトルを（事業）から（事業および部会等）に変更した。
	○会報名『えど友』および「ホームページの運営と管理」を追加	○現状に合わせて追加した。
	○部会長は役員とすることの規定化	○部会を統括する部会長は役員でないと運営上困るのに明確な規定がなく、過去には役員だった部会長が辞任し代わりに役員でない人が部会長を代行したりしたこともあり、不都合な事態が続いたこともあったので、下記の補充方法の追加と合わせて、規定として明文化した。
	○事務局長の明確化	○「事務局に事務局長を置く」としか規定されていなかった事務局長について、「役員の職務」の項に事務局長を加え、明確化した。
	○役員推薦方法の変更	○「自薦、他薦を含めて」適任者を選ぶことになっていたが、実際には自薦の場合は部会活動未経験で友の会運営の実態を知らない人が名乗り出るケースがほとんどであり、事情を話すと辞退するケースが多く、公募が形骸化していた。また役員になっても自分のイメージと実情が乖離していて結局やめることになったケースもあったため、役員等推薦委員会からの提案もあり、「部会からの推薦を受けた会員を中心に」選ぶことに改めた。
	○役員等に欠員が生じた場合の補充方法の追加	○役員に選出されたあと、再就職など仕事上の理由、ご本人の健康上の事情、ご家庭の事情などいろいろな事情で辞任される方がいて、実際には運営上翌年の補充まで待てず、担当の変更を行ったり、役員でない緊急の代行者が役員の機能を果たしたりしたこともあった。こうした事態を受け、必要な場合には役員会で補充役員を選出可能とし、次の総会で追認を受けることとした。
	○総会の定足数を２分の１以上から３分の１以上に変更	○会員数の増加にともない委任状を含めた出席者数が２分の１をわずかに上回るというケースも出てきたため定足数の見直しを行い、他の例（例えば国会両議院の定足数を規定した憲法第56条）を参考に「３分の１以上」まで引き下げることとした。

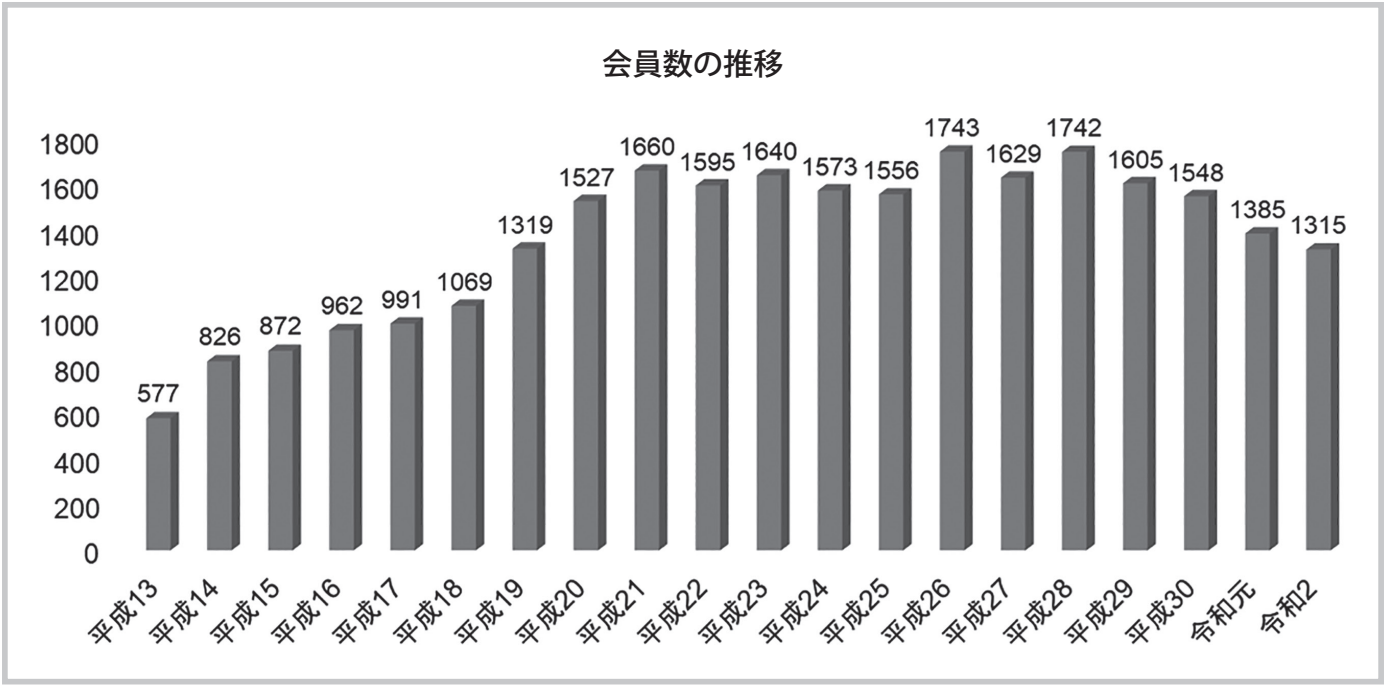
年　月　日	主　な　改　正　点	改　訂　事　由　な　ど
平成25年５月24日	○個人情報の取り扱い、保護についての基本的な考え方を明文化	○平成24年以来、個人情報保護の観点から友の会における個人情報の取り扱いの現状調査を行い、現在の運営・活動において問題なく処理されていることを確認したが、これらが規約上どこにも明記されていないので、この際明文化しておくこととした。すなわち、第14条に（個人情報保護）を新たに定め、これにともない、旧第14条は第15条とした。
	○プロジェクトチーム、えど友サークルに関する規定の追加	○町方書上翻刻チームや各えど友サークルの活発な活動に鑑み、その規約上の根拠として、第４条（事業および部会等）にプロジェクトチーム、えど友サークルに関する規定を加えた。
	○補充選任した役員および監事の改選時の扱いを明文化	○前回の規約改訂で、任期途中での役員退任に対し、次の総会での追認を条件に役員会による補充選任を可能としたが、現実にそのようなケースが発生した。しかし、その補充選任者の任期（前任者の残存期間）は決まっていたものの、さらにその改選にあたっての扱いまでは定めていなかったので、第10条（役員および監事の任期）にこの点を追加した。すなわち、補充選任者が改選時に再任しても新任として扱うこととした。
令和２年７月14日	○江戸東京博物館が長期休館する場合、友の会の活動も休会とする規定を追加	○江戸東京博物館が長期休館になる場合、友の会活動が困難になり、友の会を休会にする規定がないため第16条（休会）を追加した。休会中は、会費の徴収は行わず、会員資格期間を延長する。また、休会中は、活動の再開に向けて必要な処置を講ずることにした。

4　会員数の推移と定期総会・記念講演

友の会規約では年1回の総会が規定され、毎年総会が実施されてきましたが、令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大により、総会を書面議決方式によって行い、記念講演は中止しました。記念講演は、毎回総会にあわせて主に江戸博の館長にお願いし、大変好評を博しています。それらの記録を会員数の推移と合わせて記します。

回	総会実施年月日	当日出席者数	前年度末会員数	記念講演 講師「テーマ」	懇親会会場
1	平成13年5月19日	99	577 （発足時）	江戸東京博物館　竹内誠館長 「お江戸日本橋七ツ立ち」	
2	平成14年5月21日	81	826	江戸東京博物館　竹内誠館長 「下町と山の手」	レストランモア （江戸博2階）
3	平成15年5月28日	96	872	江戸東京博物館　竹内誠館長 「両国の花火～江戸の夕涼み～」	レストランモア （江戸博2階）
4	平成16年5月28日	110	962	江戸東京博物館　竹内誠館長 「寛政の改革と江戸」	レストランモア （江戸博2階）
5	平成17年5月27日	148	991	江戸東京博物館　竹内誠館長 「天保の改革と江戸」	レストランモア （江戸博2階）
6	平成18年5月26日	110	1,069	江戸東京博物館都市歴史研究室長　小澤弘教授 「百景～江戸と上方の美人」	レストランモア （江戸博2階）
7	平成19年5月25日	130	1,319	江戸東京博物館都市歴史研究室長　小澤弘教授 「大江戸を歩く～日本橋通り～」	レストランモア （江戸博2階）
8	平成20年5月23日	182	1,527	江戸東京博物館　竹内誠館長 「それぞれの明治維新～高須四兄弟を中心に～」	レストランモア （江戸博2階）
9	平成21年5月22日	194	1,660	江戸東京博物館　竹内誠館長 「長谷川平蔵と森山源五郎～幕臣たちの世界～」	桜茶寮 （江戸博7階）
10	平成22年5月28日	228	1,595	友の会創立10周年・国際博物館の日記念講演 江戸東京博物館　竹内誠館長 「相撲の歴史と文化」	フィンズカフェ＆ レストラン （江戸博2階）
11	平成23年5月27日	132	1,640	江戸東京博物館　竹内誠館長 「江戸社会の柔軟さに学ぶ」	桜茶寮 （江戸博7階）
12	平成24年5月26日	108	1,573	江戸東京博物館　竹内誠館長 「紀伊国屋文左衛門の実像」	桜茶寮 （江戸博7階）

回	総会実施年月日	当日出席者数	前年度末会員数	記念講演 講師「テーマ」	懇親会会場
13	平成25年5月24日	237	1,556	江戸東京博物館　竹内誠館長 「幕末維新期を生き抜いた女性たち」	桜茶寮 （江戸博7階）
14	平成26年5月30日	292	1,743	江戸東京博物館　竹内誠館長 「関ヶ原の戦いの裏舞台 ―黒田官兵衛と長政―」	桜茶寮 （江戸博7階）
15	平成27年5月29日	211	1,629	江戸東京博物館　竹内誠館長 「浅草の今と昔を語る」	桜茶寮 （江戸博7階）
16	平成28年5月27日	220	1,742	江戸東京博物館　竹内誠館長 「「浅草寺日記」の世界」	桜茶寮 （江戸博7階）
17	平成29年5月26日	150	1,605	江戸東京博物館　藤森照信館長 「茶室とわたし」	築地食堂 源ちゃん
18	平成30年5月29日 （亀戸文化センター カメリアホール）	158	1,548	江戸東京博物館　竹内誠名誉館長 「西郷隆盛 因縁ばなし」	亀戸文化センター 大研修室
19	令和元年5月24日 （亀戸文化センター カメリアホール）	109	1,385	江戸東京博物館　藤森照信館長 「日本の洋館」	亀戸文化センター 大研修室
20	令和2年6月	―	1,315	新型コロナウイルスの感染拡大により、集合しての総会は中止し書面議決方式により総会を行いました。記念講演は中止しました。	



5　各種事業の記録

（1）　概　要

友の会では発足以来、自主企画による各種の事業を開催し、多くの会員が参加しています。その記録をここにまとめてみましたが、はじめにその概要をジャンルごとにまとめて大きな流れを見ていただくことにしました。

区　　分	年　月　日	主　な　で　き　ご　と　な　ど
友の会セミナー	平成13年 7月27日	●第１回として江戸博鈴木章生学芸員による「大山詣での今昔」開催
	平成13～15年度	●年５～６回の開催
	平成16年度	●毎月１回以上、年12回以上の開催となる
	平成16年 9月19日	●講師が著名人のため一般公開とし、参加者は255人に達する
	平成20年 8月 5日	●参加希望者が多かったため午前午後の２回実施
	平成21年 2月28日	●参加希望者が多かったため午前午後の２回実施
	平成22年12月25日	●100回記念と友の会創立10周年記念行事を兼ねて実施
	平成25年 2月24日	●第126回は「町方書上翻刻版刊行を記念して」として実施
	平成27年 1月24日	●常設展示リニューアルに関し、その概要説明があった
	平成27年 3月	●館の工事のため会場が確保できず、3月のセミナーは中止。平成16年度より連続した毎月開催が中断した
	平成27年 8月～12月	●第155回～第159回の開催時にアンケートを実施
	平成28年 2月28日	●友の会15周年記念事業特別セミナーを実施
	平成29年10月～令和元年6月	●館は大ホール等改修工事のため館でのセミナーは中止
	平成30年 6月22日	●墨田区みどりコミュニティセンターホールで実施
	令和元年 8月17日	●館の改修工事終了、館大ホールでのセミナー再開
	令和 2年 3月～7月	●新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出、館は休館となりセミナー中止（延期）
	令和 2年 8月18日	●友の会20周年記念事業特別セミナーを実施
	令和 3年 1月～2月	●２回目の緊急事態宣言発出を受けて中止（延期）
古文書講座	平成14年 1月	●まず「入門編」が３人の講師によりスタート。初年度は「入門編」のみ
	平成14年度	●「入門編」のほか「初級編」がスタート
	平成16年 5月	●「初級編」を「初級編1」とやや高級な「初級編２」に分ける
	平成19年 5月	●「初級編２」は「中級編」にグレードアップ、「入門編」「初級編」「中級編」の３講座制となる
	平成20年 5月	●「入門編」の受講者が多いため、午前・午後の２回開催とする
	平成21年 9月	●「初級編」も午前・午後の２回開催とする
	平成22年 5月	●「中級編」も午前・午後となり、３講座すべてが２回開催となる
	平成23年 5月	●会場の都合で３講座とも一部の日程で午前・午後の合同講座となる
	平成23年 9月	●３講座とも午前・午後の２回開催に復活
	平成24年 9月	●「中級編」で一部講義が合同となる
	平成25年 1月	●３講座とも午前・午後の２回開催に復活
	平成27年 1月	●館のリニューアル工事の為、平成26年度第３期は中止となり、初めて中断した
	平成27年 5月	●３講座とも従来通り２回開催で復活
	平成27年 9月～11月	●第２期１～３回開催時にアンケートを実施
	平成29年10月	●館の改修工事のため第2期は10月より会場を館外（リロの会議室:飯田橋）に移しての開催となる。また受講料も会議室利用料を賄うため1期3回分2,400円に変更
	令和元年 5月	●リロ会議室契約終了で会場がすみだ産業会館：錦糸町に移る
	令和元年 7月	●館改修工事終了により、会場は江戸博1階会議室に戻る
	令和 2年 3月	●新型コロナウイルス感染拡大で第3期3月は中止

区　分	年 月 日	主 な で き ご と な ど
	令和 2年 5月	●新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出、館休館等により第1期は中止
	令和 2年 9月	●館再開するも会議室定員が40名、10月から80名になった。参加者は抽選となる
	令和 3年 1月	●2回目緊急事態宣言発出により第3期講座は1・2月中止、3・4月の2カ月間とする
見学会	平成13年12月 2日	●第1回として渋沢資料館に行っているが、参加人数の記録はない
	平成16年 3月27日	●第1回バスツアー（家康の駿府城とその周辺）実施、以後恒例
	平成16年 6月26日	●シリーズ「江戸四宿を歩く」がスタート
	平成19年 3月24日	●シリーズ「江戸城周辺の探訪」がスタート
	平成19年 5月12日	●シリーズ「江戸四宿を歩く」が終了
	平成21年 3月29日	●シリーズ「江戸城周辺の探訪」が終了
	平成21年10月24日	●シリーズ「広重『名所江戸百景』周辺探訪」がスタート
	平成21年11月29日	●シリーズ「再訪　江戸城周辺の探訪」がスタート
	平成22年 7月 3日	●シリーズ「再訪　江戸四宿を歩く」がスタート
	平成26年 5月11日	●シリーズ「『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町」がスタート
	平成26年12月 7日	●シリーズ「再訪　江戸四宿を歩く」が南品川をもって終了
	平成27年 3月 8日	●シリーズ「再訪　江戸城周辺の探訪」が終了（この見学会は平成26年10月に予定されていたが、台風のため延期されての実施となった）
	平成27年 7月16日	●リニューアルされた常設展の見学会が実施された
	平成27年 9月25日 30日	●友の会15周年記念事業特別見学会として、「浅草見番で味わう花街＆江戸情緒」「両国国技館と相撲博物館」の2企画を実施
	平成28年10月 2日	●シリーズ「定番・江戸城周辺探訪」がスタート
	平成30年 1月 7日	●シリーズ「七福神めぐり」がスタート
	令和 2年 3月～9月	●新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出等により3月から9月までの見学会中止（次年度に延期）
	令和 2年10月18日	●シリーズ「再訪広重『名所江戸百景』周辺探訪」がスタート
	令和 3年 1月～3月	●2回目の緊急事態宣言発出により見学会中止（延期）
友の会特別観覧会（内覧会および特別観覧会を含む）	平成13年 8月 6日	●第1回として企画展「世界遺産ポンペイ展～古代ローマの輝き～」の内覧会に参加
	平成17年度まで	●1階展示室の催しは「企画展」と呼称していて、博物館が主催団体関係者やプレス向けに行う内覧会（一般公開前）または特別観覧会（一般公開後）に友の会も参加させていただいていた
	平成18年度から	●「企画展」は「特別展」と改称
	平成19年 7月13日	●この回から原則として友の会単独の「友の会特別観覧会」となる
	平成23年 5月16日	●震災の影響で延期され、この日に開催された
	平成23年 7月15日	●2回連続で節電協力として、開館時間内の14時スタートとなる
	平成27年 4月 7日	●後に大入り袋が出た人気展示「大 関ヶ原展」の初日に開催、参加者186人
	平成29年10月 ～令和元年6月	●館は改修工事のため、この間特別観覧会は中止
	令和 2年 3月～10月	●新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出、館休館等によりこの間特別観覧会は中止
創作講座	平成14年 3月16日	●第1回として「ちりめん・おさいくもの」の講座を開催 ●その後、手書き友禅、江戸扇子、江戸切子などの講座を開催したが、参加者が少なく、中止することとなった
	平成16年 3月14日	●「手書き友禅（実演）」の講座が結果的に最終回となった

区　　分	年　月　日	主　な　で　き　ご　と　な　ど
えど友研究発表会 **（えど友会員発表会）**	平成21年 8月 6日	●第１回として、杉浦隆之、寺島玄、後藤幸子３氏による研究発表を行う ●その後継続して年１回開催
	平成27年 8月 4日	●スタート以来７年連続して開催、８月の定例行事となっている
	平成30年 8月	●館改修工事のため平成30年度発表会は実施せず
	令和元年 8月	●えど友研究発表会からえど友会員発表会へ、名称変更
	令和 2年 3月～10月	●新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出、館休館等により、令和２年度発表会は中止
学習会 **（地域文化探訪）**	平成24年 8月21日	●第１回が「文京ふるさと歴史館」探訪でスタート
	平成24年～27年	● 24年は１回、25年は３回、26年以降は年２回のペースで開催
	令和 2年 2月～8月	●新型コロナウイルス感染拡大及び緊急事態宣言発出等により令和２年２月８月の学習会は中止（延期）、令和３年２月の学習会は訪問先館改修工事で開催せず
	令和 3年 2月	

（2） 友の会セミナー

回数	年 月 日	演 題	講 師	参加者数
1	平成13年 7月27日	大山詣での今昔	鈴木章生（江戸東京博物館学芸員）	69
2	9月21日	幕末の異文化体験	谷本晃久（北海道教育大学助教授）	48
3	11月15日	江戸の見世物を楽しむ	川添裕（見世物研究家）	53
4	平成14年 1月25日	式亭三馬の広告双六	岩城紀子（江戸東京博物館学芸員）	29
5	2月 2日	江戸の実用書、武鑑を読み解く	藤寛久美子（学習院大学史料館助手）	52
6	2月16日	都市図の系譜『江戸一目図』	小澤弘（江戸東京博物館教授）	50
7	7月30日	幕府の仕組みと変遷	村上直（法政大学名誉教授）	78
8	9月27日	吉原とは、こんな所でございました	福田利子・清一（松葉屋経営者）	57
9	12月 3日	江戸のイキ・湊の情景 ～下り荷持の世界～	曲田浩和（日本福祉大学専任講師）	44
10	平成15年 1月21日	光の芸術　江戸切子	２代目秀石　須田富雄（江東区登録無形文化財）	22
11	3月27日	明治の女子留学生たちが、アメリカから学んだこと	久野明子（㈳日米協会専務理事）	33
12	4月 9日	汽笛一声新橋を…旧新橋停車場オープン	原田勝正（和光大学名誉教授）	46
13	9月11日	歌舞伎を楽しむ ～「伝統演劇と日本文化」～	葛西聖司（NHK エグゼクティヴ・アナウンサー）	45
14	10月 7日	藤沢周平と『橋ものがたり』 ～大川をめぐる市井の喜怒哀楽～	井上謙（元日本大学教授、近畿大学教授）	68
15	11月 6日	江戸幕府代官の実像と虚像	村上直（法政大学名誉教授）	112
16	平成16年 3月 6日	古文書で読み解く忠臣蔵	佐藤孔亮（古典芸能ライター）	95
17	5月25日	江戸を食する春 －天保時代のお祝いごとの食事－	田中美穂（江戸東京博物館学芸員）	66
18	8月13日	太田道灌と江戸城 －飢饉と戦乱の関東を駆ける－	舘鼻誠（専修大学文学部講師）	88
19	9月19日	江戸と上方～その暮らしと文化	葛西聖司（NHKエグゼクティヴ・アナウンサー）	255
20	9月28日	伊能家から見た伊能忠敬	伊能陽子（伊能忠敬７代目洋氏夫人）	72
21	10月 2日	お札になった樋口一葉・その世界	井上謙（元日本大学教授、近畿大学教授）	37
22	10月16日	魔法にかかった時代の放送 主に「兵に告ぐ」から「玉音放送」まで	松本太郎（元NHK放送博物館館長）	40
23	11月 3日	昭和天皇の料理人	谷部金次郎（大阪青山短期大学特別講師）	46
24	11月17日	江戸/東京の狛犬のあれこれ	三宅稜威夫（日本参道狛犬研究会代表幹事）	61
25	12月 5日	放鷹文化の再考 －日本の鷹狩　外国の鷹狩－	田籠善次郎（日本放鷹協会会長、第17代諏訪流鷹匠）	23
26	12月12日	八百膳の四季冬の味覚とおせち料理 －江戸料理と料亭歳時記－	栗山善四郎（八百膳10代当主）	66
27	平成17年 1月23日	江戸天下祭	作美陽一（東京都職員）	50
28	2月 5日	東海道五十三次「山あり川あり」	川口順啓（鉄道文学会副会長・㈶JR東海生涯学習財団常務理事）	67

回数	年　月　日	演　　題	講　　師	参加者数
29	平成17年 3月 5日	古文書で読み解く忠臣蔵 〈その二〉	佐藤孔亮（古典芸能ライター）	63
30	4月 9日	江戸の犯罪白書	重松一義（東京家庭裁判所調停委員、元中央学院大学教授）	76
31	6月26日	武士の家計簿 －加賀藩御算用者の幕末維新－	磯田道史（茨城大学助教授）	110
32	7月20日	戦後60年「ホタル帰る」 －島濱トメと知覧特攻隊員の物語	赤羽礼子	44
33	9月23日	旧制高等学校物語	秦郁彦（現代史家、元日本大学教授）	21
34	11月26日	「シーボルトとモースの日本コレクション」（その１）	小林淳一（江戸東京博物館　事業企画課長・学芸員）	42
35	12月15日	よみがえる巣鴨の町並み －皇女和宮のおくりもの－	高尾善希（立正大学非常勤講師）	56
36	平成18年 1月21日	「シーボルトとモースの日本コレクション」（その２）	小林淳一（江戸東京博物館　事業企画課長・学芸員）	24
37	2月25日	日記にみる御家人子弟の勉強生活 －井上範之丞の諸稽古を中心に－	石山秀和（江戸東京博物館　都市歴史研究室講師）	20
38	3月 3日	寺子屋教育と現状	市川寛明（江戸東京博物館学芸員）	24
39	4月22日	古文書が語る白木屋の商いと暮らし －店定法から読む日本橋店の奉公人－	油井宏子（NHK学園古文書講師）	75
40	6月24日	江戸時代の旅事情と旅人たち	高橋千劒破（日本ペンクラブ常務理事・歴史・文芸評論家）	108
41	7月22日	鹿鳴館の女たち	近藤富枝（文筆家）	64
42	8月 5日	落語の起源と寄席のはじまり	山本進（芸能史研究家）	83
43	9月23日	映像史の視点から －写された明治の東京－	深川英雄（駒沢女子大学教授）	33
44	10月28日	江戸の最高学府 －昌平とそこに学んだ人々－	村山吉廣（早稲田大学名誉教授）	50
45	11月25日	江戸の狂歌ブームを探訪する	川口順啓（金沢学院大学客員教授）	34
46	12月23日	江戸の広場と民衆世界	小林信也（川村学園女子大学などの非常勤講師）	56
47	平成19年 1月 9日	江戸城の構造	原史彦（江戸東京博物館事業企画課展示係長・学芸員）	140
48	1月16日	徳川家の系譜	原史彦（江戸東京博物館事業企画課展示係長・学芸員）	108
49	1月23日	江戸における大名の暮らしと庭	原史彦（江戸東京博物館事業企画課展示係長・学芸員）	105
50	1月27日	女髪結の暮らしと働き	横山百合子（立教大学兼任講師）	46
51	2月24日	藤沢周平の江戸 ～「本所しぐれ町物語の魅力」～	井上謙（元日本大学教授、NHK文化センター講師）	54
52	3月 6日	善光寺上人と江戸城「大奥」 －長野善光寺の史料を中心に－	菅野俊輔（小学館アカデミー「古文書塾てらこや」講師）	68
53	4月21日	江戸の人形文化	小林すみ江（㈱吉徳・資料室長、人形史研究家）	41
54	5月17日	奉公人の犯罪取調帳 ～白木屋『明鑑録』より～	油井宏子（NHK学園古文書講師）	87

回数	年 月 日	演題	講師	参加者数
55	平成19年 6月23日	講談を通して江戸の環境問題を考える －講談「もったいない善兵衛」－	神田紫（日本講談協会副会長）	73
56	7月24日	江戸前にぎり鮨よもやま話	吉野正二郎（日本橋吉野鮨本店店主）	82
57	8月25日	江戸川柳が描く吉原図絵 －遊興の町に生きる人と遊客－	吉澤靖（元昭和学院短期大学国文科教授）	87
58	9月22日	幕末の政治状況と大政委任論の変容 －井伊直弼の大政委任論を手がかりに－	大庭邦彦（成徳大学教授）	84
59	10月 2日	一画家から見た漱石の気になる生き方	喜多迅鷹（画家）	84
60	10月 8日	時の鐘と江戸のくらし －時刻の取り方・報せ方－	浦井祥子（日本女子大非常勤講師ほか・文学博士）	178
61	11月24日	幕末の風刺画 ～人々の絵解きの記録を読む～	湯浅淑子（たばこと塩の博物館学芸員）	70
62	12月22日	江戸の富くじ ～一攫千金の仕掛け人～	滝口正哉（千代田区立四番町歴史民俗資料館・文学博士）	116
63	平成20年 1月15日	江戸300藩殿様のその後	中山良昭（歴史紀行作家）	174
64	2月22日	十八代当主が語る太田道灌	太田資暁（太田道灌公墓前祭実行委員会会長）	111
65	3月22日	明治期の動物園と浅草花屋敷	小沢詠美子（成城大学非常勤講師）	61
66	4月26日	三嶋暦 ～江戸時代の話をまじえて～	河合龍明（三嶋暦の会会長）	112
67	5月24日	幕臣から見た天狗党	岩崎信夫（小学館アカデミー古文書塾講師）	99
68	6月13日	戦国時代の江戸城	齊藤慎一（江戸東京博物館学芸員）	170
69	6月28日	将軍を引きつけた遠山金四郎の裁判	南和男（元駒沢大学大学院教授・文学博士	96
70	7月21日	江戸のエコとスローライフ	菅野俊輔（小学館アカデミー講師）	150
71	8月 5日	天璋院－幕末の大奥と薩摩藩	畑尚子（江戸東京博物館学芸員）	188
72	8月19日	寄席の華！寄席囃子とその魅力	古今亭駿菊（落語家）	107
73	9月27日	水戸斉昭と一橋慶喜 －一橋邸継承と将軍継嗣問題を中心に－	大庭邦彦（聖徳大学教授）	170
74	10月25日	役者絵で楽しむ江戸歌舞伎 ～仮名手本忠臣蔵を中心に～	桑原博行（小学館アカデミー講師）	94
75	11月22日	最後の将軍　徳川慶喜	浦井正明（寛永寺執事長）	148
76	12月20日	東海道中余聞あれこれ	児玉修司（旅行会社歴史専任講師）	135
77	平成21年 1月24日	江戸の広告メディア～歌舞伎・錦絵・草双紙に見るコミュニケーションの知恵	坂口由之（アド・ミュージアム東京企画学芸室長）	81
78	2月28日	江戸幕府崩壊後の幕臣たち	安藤優一郎（歴史家・文学博士）	215
79	3月28日	江戸っ子とは ～都市江戸の成立と発展～	赤坂治績（歌舞伎・江戸文化研究家）	132
80	4月21日	千社札に見る江戸の社会	滝口正哉（千代田区立四番町歴史民俗資料館・文化財調査指導員）	130
81	5月23日	旗本の園芸文化	平野恵（台東区立中央図書館　郷土・資料調査室専門員）	71

回数	年　月　日	演　　題	講　　師	参加者数
82	平成21年 6月27日	江戸の旅 －その驚くべき実態と観光旅行の諸相－	菅野俊輔（江戸歴史文化研究家、早稲田大学エクステンションセンター講師）	212
83	7月25日	浮世絵の魅力	小澤弘（江戸東京博物館　都市歴史研究室長・教授）	138
84	8月22日	国技館100年を振り返る	水野尚文（『グラフNHK大相撲』元編集長）	96
85	9月26日	中世から江戸初期にかけての隅田川	鈴木敏弘（成城大学民俗学研究所研究員）	121
86	10月31日	江戸博物と好奇心	鈴木一義（国立科学博物館科学技術史グループ・グループ長）	85
87	11月28日	幇間の世界とその芸	桜川米七（幇間）	169
88	12月26日	江戸の食文化	小沢詠美子（成城大学非常勤講師）	160
89	平成22年 1月23日	『江戸名所図会』の成立について －齊藤家三代の編纂と出版	齊藤智美（文京ふるさと歴史館専門員）	177
90	2月27日	北条氏照と八王子城	土井義夫（八王子市郷土資料館学芸員）	125
91	3月27日	徳川家の婚姻政策（前編）	山本博文（東京大学史料編纂所教授・文学博士）	210
92	4月26日	江戸の食べ物 ～作る・獲る・食べる～	田中美穂（江戸東京博物館学芸員）	160
93	5月22日	江戸の弁財船（菱垣廻船、樽廻船など）	小堀信幸（船の科学館・前学芸部長）	118
94	6月26日	江戸下町＝ベネチアコピー説	圓山稔（NPO法人江戸連事務局長）	94
95	7月19日	徳川家の婚姻政策（後編）	山本博文（東京大学大学院情報学環教授・資料編纂所教授）	169
96	8月28日	謎の浮世絵師・写楽を追う	内田千鶴子（江戸文化研究家）	174
97	9月25日	龍馬を継いだ男　岩崎弥太郎	安藤優一郎（歴史家・文学博士）	176
98	10月23日	江戸庶民の生活と広場の賑わい	小林信也（川村学園女子大学講師・文学博士）	116
99	11月27日	囲碁家元本因坊家文書の世界 －囲碁のルールから歴史まで	高尾善希（立正大学非常勤講師・文学博士）	73
100	12月25日	江戸の政治改革 －将軍吉宗VS尾張宗春－	大石学（東京学芸大教授）	313
101	平成23年 1月22日	日本騎兵の父・秋山好古 ～東京陸軍士官学校時代から習志野騎兵旅団長時代を中心に～	山岸良二（東邦大学付属東邦中・東邦高等学校教諭・習志野市文化財審議会会長）	92
102	2月26日	太田道灌紀行－「道灌がかり」「山吹伝説」「足軽戦法」を考える	尾崎孝（太田道灌研究者）	152
103	3月26日	江戸は一日にしてならず	谷口榮（葛飾区郷土と天文の博物館学芸員）	東日本大震災の影響で延期
104	4月23日	江戸衣裳～武家・商人・職人など男女の着物とその変遷を楽しむ～	菊地ひと美（江戸著者・画家）	東日本大震災の影響で延期
105	5月20日	怪・一夜で消えた江戸鼠山の大寺（感応寺）	伊藤榮洪（豊島区図書館専門研究員）	113
106	6月25日	大正時代の大相撲　大正100年に寄せて	水野尚文（『ＮＨＫ大相撲中継』元編集長）	47

回数	年　月　日	演　　題	講　　師	参加者数
107	平成23年 7月23日	江戸は一日にしてならず	谷口榮（葛飾区郷土と天文の博物館学芸員）	163
108	8月27日	お江・秀忠と子どもたち	小和田哲男（静岡大学名誉教授・文学博士）	237
109	9月24日	江戸歌舞伎の事件史～なぜ歌舞伎は世界に通用する芸能になりえたのか	赤坂治績（演劇評論家）	126
110	10月22日	江戸の遊興	安藤優一郎（文学博士・歴史家）	122
111	11月26日	江戸衣裳～武家・商人・職人など男女の着物とその変遷を楽しむ～	菊地ひと美（江戸著者・画家）	113
112	12月24日	江戸の総鎮守・神田明神の祭礼と文化	清水祥彦（神田明神権宮司）	147
113	平成24年 1月28日	増上寺　徳川家霊廟の世界	髙山優（港区立港郷土資料館学芸員）	144
114	2月25日	後藤新平をめぐる男たち　江戸博所蔵資料を中心に	松井かおる（江戸東京博物館学芸員）	80
115	3月24日	忘れそうな江戸東京ことば	林えり子（作家）	147
116	4月28日	江戸の時刻制度と和時計	佐々木勝浩（国立科学博物館名誉研究員）	139
117	5月18日	新川、小名木川・塩の道～江戸幕府の開府と舟運路がもたらしたもの～	土屋信行（えどがわ環境財団理事長）	168
118	6月23日	忘れられた幕末の偉人―小栗上野介	福田嘉文（歴史研究家）	166
119	7月28日	三猿のみた江戸 ―石造物から読み解く近世―	石神裕之（慶応義塾大学准教授）	109
120	8月11日	公家・門跡の江戸参向	田中潤（学習院大学文学部史学科助教・史学博士）	211
121	9月29日	彰義隊の墓守の子孫がみた上野戦争と上野公園	小川潔（彰義隊子孫・農学博士）	105
122	10月27日	坂本龍馬と刀剣―龍馬を斬った刀	小美濃清明（幕末史研究家）	94
123	11月10日	子孫が語る家康六男忠輝の末裔 松平忠敏の幕末史	松平康夫（江東区文化財保護審議会会長）	121
124	12月22日	古文書に見る忠臣蔵の真相	吉田豊（生涯学習インストラクター）	167
125	平成25年 1月26日	江戸・東京の願掛け・まじない	加藤紫識（千代田区立日比谷図書文化館　文化財調査指導員）	96
126	2月24日	町方書上翻刻版刊行を記念して	市川寛明（江戸東京博物館学芸員） 髙山慶子（宇都宮大学教育学部准教授）	96
127	3月　9日	鞠も落ちねば上がり申さず候 （源内、江戸を駆ける！）	小中陽太郎（作家）	165
128	4月30日	草葉の陰から江戸を見る	西木浩一（東京都公文書館史料編さん係長）	138
129	5月17日	江戸城内の行事と儀礼	深井雅海（聖心女子大学文学部教授）	167
130	6月22日	永代橋崩落事故から見えてくるもの	桐原総一（日本エコミュージアム研究会員）	118
131	7月27日	将軍の装束について	田中潤（学習院大学文学部史学科助教）	170

回数	年　月　日	演　　題	講　　師	参加者数
132	平成25年 8月17日	忘れられた黒船クライシス(危機) －文久３年(1863)生麦償金事件－	高尾善希（立正大学文学部史学科非常勤講師）	186
133	9月 7日	武士の呼称	近松鴻二（江戸東京博物館客員研究員）	154
134	10月20日	利根川改変と江戸の開発	橋本直子（葛飾区郷土と天文の博物館学芸員）	123
135	11月23日	和食の文化、江戸っ子の食	大久保洋子（日本家政学会食文化研究部会長）	108
136	12月14日	飛脚屋利右衛門の旅のゆくえ	玉井幹司（物流博物館学芸員）	144
137	平成26年 1月25日	江戸の町名と俗称	北原進（立正大学名誉教授）	183
138	2月22日	昌平坂学問所と江戸の学歴社会	加藤芳典（文京ふるさと歴史館専門員）	151
139	3月22日	江戸を愛した男－名主・熊井理左衛門小伝	小林信也（川村学園女子大学講師）	135
140	4月13日	百万都市・江戸市中の拡大 －南西方面を中心に－	竹村到〔港区立港郷土資料館学芸員（文化財保護調査員）〕	158
141	5月10日	『江戸名所図会』を読む－「東都盛大」と「花のながめ」を考える－	齊藤智美（明治大学文学部兼任講師）	179
142	6月28日	寄席文字・江戸文字を楽しむ	橘右之吉（橘流寄席文字･江戸文字書家）	100
143	7月27日	大変だった！ 将軍の大名庭園見物 －収集家 小澤圭次郎の功績－	吉河功（日本庭園研究会会長）	117
144	8月23日	江戸・東京の稲荷信仰	加藤紫識（千代田区立日比谷図書文化館　文化財調査指導員・学芸員）	182
145	9月27日	子孫が語る　土方歳三とその一族	土方愛（土方歳三資料館館長）	143
146	10月11日	川越と平林寺　～知恵伊豆と呼ばれた老中松平信綱が作った野火止新田～	田中潤（お茶の水女子大学非常勤講師）	190
147	11月21日	小塚原の仕置場と地域へのまなざし	亀川泰照（荒川ふるさと文化館上級主任学芸員）	102
148	12月20日	大岡越前守と武蔵野新田の開発	真下祥幸（江戸東京博物館学芸員）	124
149	平成27年 1月24日	常設展示リニューアルの概要	新田太郎（江戸東京博物館学芸員）	95
150	2月28日	町奉行所の与力・同心	滝口正哉（千代田区教育委員会文化財調査指導員）	205
151	4月25日	「江島事件」と江戸歌舞伎	菅野俊輔（歴史家　早稲田大学エクステンションセンター講師）	201
152	5月23日	役者絵の成立と発展	小林優（足立区立郷土博物館専門員）	78
153	6月27日	太田道灌 －江戸を切り開いた悲劇の名将－	黒田基樹（駿河台大学教授）	226
154	7月11日	地名からひもとく江戸東京の街の変遷	岩垣顕（江戸東京文化研究家）	205
155	8月22日	大相撲に見る江戸時代と変化	中村史彦（相撲博物館学芸員）	123
156	9月12日	有力大名が造った－風変わりな庭々－	吉河功（日本庭園研究会会長）	137
157	10月25日	江戸の下水道	栗田彰（江戸下水研究家）	150
158	11月14日	徳川将軍姫君の婚礼	吉成香澄（豊島区教育委員会文化財保護専門員）	105

回数	年　月　日	演　　題	講　　師	参加者数
159	平成27年12月　1日	江戸時代　公家の衣装―公家装束「束帯・衣冠」を着てみましょう―	田中潤（学習院大学非常勤講師）	152
160	平成28年　1月26日	江戸はさながら花都	田中実穂（江戸東京博物館学芸員）	96
161	2月28日	真田の魅力－兄と弟の戦国時代－	小和田哲男（静岡大学名誉教授・文学博士）	333
162	3月12日	武鑑を読み解く①大名編	滝口正哉（千代田区教育委員会文化財調査指導員）	219
163	4月16日	武鑑を読み解く②旗本・御家人編	滝口正哉（立正大学・成城大学非常勤講師）	199
164	5月14日	山岡鉄舟の人間力	山本紀久雄（山岡鉄舟研究会会長）	156
165	6月11日	花のお江戸を馬が行く	村井文彦（馬の博物館　学芸員）	113
166	7月16日	将軍の印章 ―その制作過程と役割・機能を中心に―	西　光三（板橋区公文書館　公文書館専門員）	124
167	8月20日	渡し舟から橋梁へ ～明治初期の架橋事情～	齊藤照徳（江東区文化財専門員）	126
168	9月10日	徳川水軍と向井将監	鈴木かほる（三浦一族研究会特別研究員）	180
169	10月15日	幕末～明治の深川	龍澤　潤（深川東京モダン館副館長）	133
170	11月12日	公儀の庭・浜御殿の変遷と役割	工藤航平（東京都公文書館専門員）	126
171	12月17日	行徳と江戸を結ぶ舟運	菅野洋介（市立市川歴史博物館学芸員）	152
172	平成29年　1月14日	江戸町人の四季と衣裳	菊地ひと美（江戸の衣装と暮らし研究家）	113
173	2月25日	江戸っ子が惚れた赤穂事件と「忠臣蔵」	菅野俊輔（江戸文化研究家、歴史家）	128
174	3月11日	現代の刀匠、刀造りを語る	吉原義人（刀匠）	91
175	4月15日	遠国奉行川路聖謨の治政―佐渡奉行及び奈良奉行時代の民政を中心に―	大庭邦彦（聖徳大学文学部教授）	176
176	5月13日	江戸城代北条氏秀の軌跡	長塚　孝（馬の博物館・学芸部長）	104
177	6月17日	大河ドラマ「おんな城主　直虎」と時代考証	小和田哲男（静岡大学名誉教授・文学博士）	178
178	7月15日	江戸図の出板を考える―二つの切絵図に至るまで―	齊藤智美（明治大学文学部兼任講師）	142
179	8月19日	錦絵とかわら版にみる、お江戸の時事	富澤達三（松戸市立博物館学芸員）	108
180	平成30年　6月22日	朝鮮通信使と雨森芳洲の功績と思い	桐原総一（日本エコミュージアム研究会員）	119
181	令和元年　8月17日	家康の関東入国から関が原合戦 ―文書の見方・調べ方―	柴辻俊六（早稲田大学名誉賛助員）	171
182	9月14日	「皇室」―御代替わりを迎えて―	羽毛田信吾（昭和館館長）	101
183	10月12日	杉浦日向子の視点～江戸へようこそ～	野呂達矢（江東区芭蕉記念館次長）	台風で延期
184	11月15日	幕府・薩摩を支えた琉球の主体性－薩摩・琉球・中国―	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	172
185	12月21日	芭蕉と江戸	横浜文孝（法政大学非常勤講師）	112

回数	年	月　日	演　　題	講　　師	参加者数
186	令和2年	1月19日	公家女性の装束と着装について	田中　潤（学習院大学非常勤講師）	127
187		2月　1日	杉浦日向子の視点～江戸へようこそ～	野呂達矢（江東区芭蕉記念館次長）	101
188		2月15日	大名に嫁いだ将軍姫君の生活	吉成香澄（徳川林政史研究所非常勤研究員）	100
189		3月22日	江戸時代の朝廷と幕府―皇位継承を中心に―	長坂良宏（国立公文書館、公文書専門官）	新型コロナウイルスで延期
190		4月25日	江戸時代人の動物観―「不思議な存在」狸は化ける　狐はどうする？	石田　戢（動物観研究所所長）	4月～7月のセミナーは新型コロナウイルスで延期
191		5月24日	浮世絵で見る江戸時代	堀口茉純（女優・タレント・作家）	
192		6月20日	家康以前の江戸城―知られざる太田道灌・小田原北条氏時代の縄張り―	谷口　榮（元葛飾区郷土と天文の博物館学芸員）	
193		7月22日	祭り絵師　船橋一泰が描く『えど東京の祭り絵』	船橋一泰（祭絵師、東洋学園大学生涯学園講師）	
194		8月18日	明智光秀の実像に迫る（20周年記念事業）	小和田哲男（静岡大学名誉教授）	142
195		9月12日	江戸の運河と小名木川	久松健夫（中川船番所資料館係長）	89
196		10月24日	立花宗茂―その迷いなき生涯	立花宗鑑（立花家17代当主、立花財団理事長）	114
197		11月15日	廃仏毀釈とは何だったのか	鵜飼秀徳（作家　浄土宗僧侶）	166
198		12月19日	浮世絵で見る江戸時代	堀口茉純（歴史タレント／歴史作家）	130
199	令和3年	1月16日	長谷川雪旦～江戸の街の一級資料『江戸名所図会』を描いた絵師～	海老塚耕一（多摩美術大学教授）	新型コロナウイルスで延期
200		2月14日	徳川家康はなぜ三浦按針を外交顧問としたか	鈴木かほる（歴史研究家）	
201		3月26日	江戸美人の女性美　髪型と化粧	村田孝子（国際文化学園美容考古学研究所所長）	68

（注1）江戸東京博物館は平成29年（2017年）10月より令和元年（2019年）7月までホール棟の改修工事のため,この間大ホールでのセミナーは中止となった。
（注2）平成30年6月のセミナーは墨田区みどりコミュニティセンターホールで実施した。
（注3）新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出、館休館等により令和2年（2020年）3月より7月迄、および令和3年（2021年）1月、2月のセミナーは延期とした。

（3） 古文書講座

No.	年度	講座名	講師	年間参加者数
1	平成13年度	入門編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 西村慎太郎（学習院大学大学院史学専攻）	164
2	平成14年度	入門編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 西村慎太郎（学習院大学大学院史学専攻）	421
3	平成14年度	初級編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 西村慎太郎（学習院大学大学院史学専攻）	510
4	平成15年度	入門編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 西村慎太郎（学習院大学大学院史学専攻）	756
5	平成15年度	初級編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 西村慎太郎（学習院大学大学院史学専攻）	714
6	平成16年度	入門編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 西村慎太郎（学習院大学大学院史学専攻）	626
7	平成16年度	初級編（1）	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻）	611
8	平成16年度	初級編（2）	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻）	310
9	平成17年度	入門編	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻）	584
10	平成17年度	初級編（1）	野尻泰弘（学習院大学大学院史学専攻） 小宮山敏和（学習院大学大学院史学専攻） 長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	545
11	平成17年度	初級編（2）	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻）	315
12	平成18年度	入門編	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻） 長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	590
13	平成18年度	初級編（1）	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻） 長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	567
14	平成18年度	初級編（2）	小宮山敏和（徳川林政史研究所）	300
15	平成19年度	入門編	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻）	850
16	平成19年度	初級編	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	682
17	平成19年度	中級編	小宮山敏和（徳川林政史研究所）	615
18	平成20年度	入門編A 入門編P	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻）	1,092
19	平成20年度	初級編	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	679
20	平成20年度	中級編	小宮山敏和（徳川林政史研究所）	623
21	平成21年度	入門編A 入門編P	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻）	1,050
22	平成21年度	初級編	田中潤（学習院大学大学院史学専攻）	250

No.	年度	講座名	講　　師	年間参加者数
23	平成21年度	初級編A 初級編P	田中潤（学習院大学大学院史学専攻）	678
24	平成21年度	中級編	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	641
25	平成22年度	入門編A 入門編P	小松賢司（学習院大学大学院史学専攻）	936
26	平成22年度	初級編A 初級編P	田中潤（学習院大学大学院史学専攻）	1,023
27	平成22年度	中級編A 中級編P	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	687
28	平成23年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学大学院史学専攻）	1,020
29	平成23年度	初級編A 初級編P	吉成香澄（学習院大学大学院史学専攻）	831
30	平成23年度	中級編A 中級編P	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	601
31	平成24年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学文学部史学科助教）	1,199
32	平成24年度	初級編A 初級編P	吉成香澄（学習院大学大学院史学専攻）	847
33	平成24年度	中級編A 中級編P	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	571
34	平成25年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学文学部史学科助教）	1,456
35	平成25年度	初級編A 初級編P	吉成香澄（学習院大学大学院史学専攻）	870
36	平成25年度	中級編A 中級編P	長坂良宏（学習院大学大学院史学専攻）	491
37	平成26年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	924
38	平成26年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	716
39	平成26年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（学習院大学大学院史学専攻）	445
40	平成27年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	1,517
41	平成27年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	1,062
42	平成27年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（豊島区教育委員会非常勤職員）	573
			注　平成27年度は、1期、2期の合計	

No.	年度	講座名	講　　師	年間参加者数
43	平成28年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	1,754
44	平成28年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	1,223
45	平成28年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（豊島区教育委員会文化財保護専門員）	629
46	平成29年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	1,627
47	平成29年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	1,287
48	平成29年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（豊島区教育委員会文化財保護専門員）	712
49	平成30年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	1,462
50	平成30年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	1,241
51	平成30年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（豊島区教育委員会文化財保護専門員）	667
52	令和元年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	1,409
53	令和元年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	1,161
54	令和元年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（徳川林政史研究所非常勤研究員）	569
55	令和2年度	入門編A 入門編P	田中潤（学習院大学非常勤講師）	345
56	令和2年度	初級編A 初級編P	安藤奈々（学習院大学大学院史学専攻）	334
57	令和2年度	中級編A 中級編P	吉成香澄（徳川林政史研究所非常勤研究員）	211

（注１）Ａは午前、Ｐは午後

（注２）受講者が増えたため平成20年度から「入門編」がＡ／Ｐ制を採用、平成21年度には第２期から「初級編」もＡ／Ｐ制を採用、平成22年度からは「中級編」を含め全講座がＡ／Ｐ制となり、現在にいたっている。

（注３）平成26年度は、１期、２期の合計、３期はリニューアル工事のため休止

（注４）平成29年（2017）10月から令和元年（2019）６月まで、江戸博ホール等の改修工事のため館内会議室が使用できなくなり館外の会場での開催となった。平成29年(2017)10月～平成31年(2019)3月までは､「リロの会議室･飯田橋」。令和元年（2019）５月、６月は「すみだ産業会館・錦糸町」を使用。令和元年７月からは、江戸博１階会議室に戻る。

（注５）新型コロナウイルス感染防止対策により、博物館の休館および催事自粛要請を受けて令和元年度３月は休止。令和２年度第１期は休止。第２期は定員40人、10月より定員80人。第３期は令和３年１、２月休止、３、４月２回のみ。参加者数は第２期と第３期３月分合計、４月分含まず。

（4） 見学会

回数	年　月　日	タ　イ　ト　ル（　テ　ー　マ　）	参加者数
1	平成13年12月　2日	渋沢史料館	不明
2	平成14年　6月15日	江戸城めぐり・第１回	77
3	10月12日	江戸城めぐり・第２回	47
4	平成15年　6月21日	鉄道唱歌見て歩き	53
5	9月27日	根岸の里めぐり～古い町並みに歴史と文化を探訪～	33
6	11月23日	行徳街道めぐり（塩田と船着場跡）～宮本武蔵の遺跡をしのぶ～	54
7	平成16年　2月18日	常設展をゆっくり見る	47
8	3月27日	特別記念バスツアー家康の駿府城とその周辺	134
9	6月26日	〈江戸四宿を歩く〉品川宿－その１	132
10	9月　5日	常設展を見る～大江戸歌舞伎と能	43
11	11月13日	バスツアー・北総探訪－成田不動と小江戸佐原と伊能忠敬	85
12	12月11日	〈相撲史跡探訪〉その１	30
13	平成17年　3月　6日	常設展を見る～火消年代記～	28
14	3月12日	〈江戸四宿を歩く〉千住宿－その１	108
15	3月26日	〈大相撲の史跡探訪〉その２「小岩コース」	30
16	5月　7日	旧銀座れんが街と周辺の史跡探訪	101
17	5月21日	北関東の小江戸－栃木市の蔵造り街探訪	54
18	6月11日	〈江戸四宿を歩く〉品川宿－その２	72
19	10月22日	〈大相撲の史跡探訪〉その３「本所コース」	22
20	12月　3日	小江戸川越・蔵造りの街探訪	33
21	平成18年　3月25日	〈江戸四宿を歩く〉板橋宿	73
22	5月13日	銀座「東銀座側」と築地方面の探訪	70
23	6月10日	〈江戸四宿を歩く〉内藤新宿－その１	98
24	9月30日	聖橋をはさんで神田・お茶ノ水を歩く	56
25	10月14日	バスツアー・徳川氏発祥の地、世良田とその周辺史跡探訪	78
26	11月26日	〈江戸四宿を歩く〉千住宿－その２	79
27	平成19年　3月24日	江戸城周辺探訪－その１	144
28	5月12日	〈江戸四宿を歩く〉内藤新宿－その２	104
29	9月　8日	川面から見る東京－船による東京の川めぐり	210
30	10月13日	バスツアー・水戸徳川家見学	96
31	10月21日	江戸城周辺探訪－その２（内濠）	170
32	11月18日	深川の史跡－その１	79
33	平成20年　3月29日	江戸城周辺探訪－その３（外濠）	159
34	5月31日	深川の史跡－その２	108
35	6月29日	向島の史跡探訪	115
36	10月11日	江戸城周辺探訪－その４（外濠）	152
37	11月　8日	バスツアー・関宿と野田探訪	122

回数	年 月 日	タ イ ト ル（ テ ー マ ）	参加者数
38	平成20年12月 3日	江戸東京たてもの園見学会	41
39	平成21年 1月16日	江戸博常設展を見る	41
40	3月29日	江戸城周辺探訪－その５（外濠）	168
41	7月 3日	知られざる浅草をめぐる	98
42	7月 4日	知られざる浅草をめぐる	68
43	7月 7日	知られざる浅草をめぐる	56
44	9月12日	バスツアー・足利市内の史跡探訪	107
45	10月24日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その１「日本橋周辺」	162
46	11月29日	再訪　江戸城周辺の探訪－その１	188
47	平成22年 1月26日	江戸博　常設展見学会	44
48	1月28日	江戸博　常設展見学会	20
49	3月28日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その２「上野周辺」	200
50	7月 3日	〈再訪　江戸四宿を歩く〉品川宿－その１	176
51	9月 4日	川面から見る江戸東京－船でめぐる小名木川、日本橋川、神田川	290
52	10月 3日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その３「両国橋上流、隅田川周辺」	204
53	10月16日	バスツアー・房総のむら見学と歴史体験	86
54	11月28日	再訪　江戸城周辺の探訪－その２（内濠）	174
55	平成23年 1月25日	江戸博　常設展見学会	24
56	3月27日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その４「浅草北周辺」	東日本大震災の影響で延期
57	5月29日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その４「浅草北周辺」	106
58	6月12日	再訪　江戸四宿を歩く－千住宿	180
59	9月25日	再訪　江戸四宿を歩く－板橋宿	171
60	10月16日	富岡製糸場および周辺見学（バスツアー）	112
61	11月27日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その５「本所深川・大川端周辺」	162
62	平成24年 3月25日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その６「深川木場・門前仲町周辺」	184
63	4月22日	再訪　江戸四宿を歩く－内藤新宿	172
64	6月10日	『江戸名所図会』を中心に江戸の面影を訪ね歩く－その１　湯島・本郷	207
65	9月30日	再訪　江戸城周辺の探訪－その３（外濠）	129
66	10月 5日	日光東照宮および周辺見学（バスツアー）	121
67	11月25日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その７「日本橋南・銀座周辺」	143
68	平成25年 3月24日	江戸東京たてもの園見学会	55
69	3月26日	江戸博常設展を見る	45
70	3月31日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その８「赤坂・霞が関周辺」	139
71	5月12日	『江戸名所図会』を中心に江戸の面影を訪ね歩く－その２　駒込～白山	163
72	9月29日	再訪　江戸城周辺の探訪－その４（外濠）	128
73	10月 3日	国宝妻沼聖天・忍城址・さきたま古墳群を巡る（バスツアー）	115
74	11月24日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その９「茅場町・築地周辺」	141
75	平成26年 3月30日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その10「新橋・芝周辺」	110

回数	年 月 日	タ イ ト ル（ テ ー マ ）	参加者数
76	5月11日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（1）	177
77	6月 8日	切絵図で歩く『鬼平犯科帳』（1）	149
78	7月24日	江戸博常設展を見る	44
79	11月 9日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その11「白金・目黒周辺」	134
80	11月27日	川越市内見学と平林寺参拝（バスツアー）	125
81	12月 7日	再訪　江戸四宿を歩く－南品川宿	124
82	平成27年 3月 8日	再訪　江戸城周辺の探訪－その5（外濠）	125
83	4月12日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その12「王子周辺」	134
84	5月31日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（2）	135
85	7月16日	常設展（リニューアル）見学会	43
86	9月25日	浅草見番で味わう花街＆江戸情緒	89
87	9月30日	両国国技館と相撲博物館	152
88	11月 8日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その13「神田川下流（外濠）周辺」	105
89	12月 6日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（3）	124
90	平成28年 3月27日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その14「早稲田・神田川周辺」	153
91	4月24日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（4）	118
92	10月 2日	定番・江戸城周辺探訪―その1（本丸）－	154
93	10月12日	恵林寺と甲府の歴史を訪ねて（バスツアー）	100
94	11月 6日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その15（亀戸・向島周辺）－	158
95	平成29年 3月26日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その16（南千住・向島北周辺）－	84
96	4月23日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（5） ―青山善光寺から金王八幡社まで	132
97	10月 8日	定番・江戸城周辺探訪―その2（内濠周辺）－	116
98	11月12日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その17（四谷・新宿周辺）－	118
99	12月10日	九品仏浄真寺と等々力渓谷	106
100	平成30年 1月 7日	都内で一番古く、充実した”谷中七福神”をめぐる！	117
101	3月25日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その18（高輪・品川周辺）－	128
102	4月15日	江戸東京たてもの園を楽しむ	荒天で順延
103	5月13日	深川・木場・洲崎探訪	111
104	6月10日	赤穂四十七士の凱旋コースを歩く（前半）	61
105	9月 9日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（6） ―永田馬場山王御旅所から伊雑大神宮―	123
106	9月23日	江戸東京たてもの園を楽しむ（再）	41
107	10月14日	定番・江戸城周辺探訪―その3（外濠周辺）－	89
108	11月11日	広重『名所江戸百景』周辺探訪－その19（南千住～日暮里周辺）－	117
109	12月 9日	赤穂四十七士の凱旋コースを歩く（後半）	121
110	平成31年 1月 7日	隅田川七福神を歩く	90
111	1月30日	江戸東京博物館常設展を楽しむ	69
112	3月31日	広重『名所江戸百景』周辺探訪 －その20（旧中川・旧江戸川流域周辺）－（最終回）	124

回数	年 月 日	タ イ ト ル（ テ ー マ ）	参加者数
113	4月27日	浅草周辺の寺社を歩く－浅草寺・待乳山聖天・今戸神社－	97
114	令和元年 6月 9日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（7）—高円寺氷川神社から大宮八幡宮—	83
115	9月25日	「銀座今昔物語」—裏小路からメインストリートまで—	103
116	10月27日	定番・江戸城周辺探訪—その4（外濠周辺）－	113
117	11月17日	春日局と大奥コース	73
118	令和2年 1月 6日	日本橋七福神めぐり	106
119	3月15日	バスで巡る品川宿・日本橋・千住宿	新型コロナウイルスで3月から9月までの見学会は中止（次年度に延期）
120	4月19日	『江戸名所図会』の挿絵で歩く江戸の町（8）～浅草橋・駒形堂～	
121	6月 7日	浮世絵と古地図で巡る江戸～伝通院とその周辺を巡る～	
122	9月27日	定番・江戸城周辺探訪—その5（外濠周辺）－	
123	10月18日	再訪　広重『名所江戸百景』周辺探訪—その1（王子周辺）—	77
124	11月28日	門前仲町から茅場町まで（明治丸～掘割跡と「下り酒問屋」）	73
125	令和3年 1月 6日	「元祖山手七福神」を歩く	新型コロナウイルスで中止（延期）
126	3月14日	浮世絵と古地図で巡る江戸～伝通院とその周辺を巡る～	

（5） 友の会特別観覧会（内覧会、特別観覧会）

回数	年 月 日	特 別 展[注1] タ イ ト ル	参加者数	備考
1	平成13年 8月 6日	世界遺産ポンペイ展～古代ローマの輝き～	86	内
2	11月19日	東京建築展・住まいの軌跡～都市の奇跡	14	内
3	平成14年 2月25日	こどもの世界展～ひな・きもの・おもちゃ	46	内
4	4月22日	利家とまつ～加賀百万石物語展	44	内
5	6月24日	発掘された日本列島2002 ～新発見考古速報展	40	内
6	7月19日	古代エジプト展～永遠の美	57	内
7	9月20日	本田宗一郎と井深大展～夢と創造	43	内
8	平成15年 1月 6日	大江戸八百八町展	88	特
9	3月15日	江戸東京＜もの＞がたり～江戸博特別収蔵品展	50	内
10	4月10日	武蔵MUSASHI－武人画家と剣豪の世界展	59	内
11	6月 2日	発掘された日本列島2003－新発見考古速報展－	45	内
12	7月18日	徳川将軍家展	80	内
13	9月12日	東京流行生活展	48	内
14	12月 1日	平賀源内展	61	特
15	平成16年 2月 2日	円山応挙展－＜写生画＞創造への挑戦－	69	内
16	4月 3日	「新撰組！」展	145	内
17	5月31日	発掘された日本列島2004－新発見考古速報展－	60	内
18	7月17日	エルミタージュ美術館展－エカテリーナ2世の華麗なる遺産－	98	特
19	11月 5日	大（Oh！）水木しげる展	37	内
20	平成17年 1月26日	フランスの至宝・エミール・ガレ展	58	特

回数	年　月　日	特　別　展(注1)　タ　イ　ト　ル	参加者数	備考
21	4月　5日	新シルクロード展	124	内
22	7月11日	発掘された日本列島2005－新発見考古速報展－	39	内
23	8月29日	美しき日本　大正昭和の旅展	38	内
24	10月31日	生誕120年川端龍子展	32	内
25	12月22日	「功名が辻」特別展～山内一豊とその妻～	158	内
26	平成18年 2月17日	江戸の学び－教育爆発の時代から展－	26	内
27	4月10日	ヴェルサイユ宮殿美術館　ナポレオンとヴェルサイユ展	66	内
28	6月19日	発掘された日本列島2006 ～新発見考古速報展	89	内
29	8月　8日	始皇帝と彩色兵馬展～司馬遷『史記の世界』～	163	特
30	10月26日	ボストン美術館所蔵　肉筆浮世絵展　“江戸の誘惑”	219	特
31	平成19年 1月12日	江戸城展	343	特
32	3月23日	ロシア皇帝の至宝展～世界遺産クレムリンの奇跡～	101	特
33	6月　3日	発掘された日本列島2007 ～新発見考古速報展	45	内
34	7月13日	大鉄道博覧会～昭和への旅は鉄道に乗って～	61	友
35	9月27日	文豪・夏目漱石～そのこころとまなざし～	83	友
36	12月　6日	北斎－ヨーロッパを魅了した江戸の絵師－	135	友
37	平成20年 2月22日	天璋院　篤姫展	173	友
38	5月　2日	ペリー＆ハリス　～泰平の眠りを覚ました男たち～	118	友
39	7月18日	北京故宮　書の名宝展	74	友
40	7月19日	発掘された日本列島2008 ～新発見考古速報展	66	内
41	10月10日	ボストン美術館　浮世絵名品展	205	友
42	12月19日	珠玉の輿～江戸と乗り物	151	友
43	平成21年 2月20日	薩摩焼～パリと篤姫を魅了した伝統の美～	93	友
44	平成21年 4月21日	手塚治虫展～未来へのメッセージ～	65	友
45	7月10日	写楽　幻の肉筆画　ギリシャに眠る日本美術～マノスコレクションより	188	友
46	9月25日	よみがえる浮世絵 －うるわしき大正新版画展	92	友
47	11月27日	いけばな～歴史を彩る日本の美	44	友
48	平成22年 2月　5日	チンギス・ハーンとモンゴルの至宝展	124	友
49	4月30日	2010年NHK大河ドラマ特別展「龍馬伝」	243	友
50	6月25日	大昆虫博～日本人と虫たちの深く長い歴史～	35	友
51	9月24日	隅田川～江戸が愛した風景～	199	友
52	平成23年 1月　7日	2011年NHK大河ドラマ特別展「江～姫たちの戦国」	225	友
53	3月18日	特別展・増上寺秘蔵の仏画　幕末の絵師　狩野一信	東日本大震災の影響で延期	友
54	5月16日	特別展 「五百羅漢－増上寺秘蔵の仏画　幕末の絵師　狩野一信－」	77	友
55	7月15日	都営交通100周年記念特別展「東京の交通100年博～都電・バス・地下鉄の“いま・むかし”～」	48	友
56	9月30日	特別展 「世界遺産 ヴェネツィア展～魅惑の芸術－千年の都～」	130	友
57	平成24年 1月　6日	ＮＨＫ大河ドラマ50年特別展 「平 清盛」	141	友
58	2月24日	特別展 「ザ・タワー～都市と塔のものがたり～」	62	友
59	6月　1日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展「日本橋～描かれたランドマークの400年～」	98	友
60	8月　3日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展 「二条城展」	193	友
61	10月12日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展 「維新の洋画家 川村清雄」	76	友
62	平成25年 1月11日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展 「尾張徳川家の至宝」	139	友
63	3月15日	江戸東京博物館　開館20周年記念2013年ＮＨＫ大河ドラマ特別展「八重の桜」	123	友

回数	年　月　日	特　別　展(注1)　タ　イ　ト　ル	参加者数	備考
64	5月31日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展 「ファインバーグ・コレクション展　江戸絵画の奇跡」	107	友
65	8月17日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展　「花開く　江戸の園芸」	87	友
66	9月27日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展 「明治のこころ －モースが見た庶民のくらし－」	95	友
67	平成26年 1月10日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展　「大浮世絵展」	186	友
68	3月27日	江戸東京博物館　開館20周年記念特別展 「大江戸と洛中～アジアのなかの都市景観～」	119	友
69	6月　6日	2014年ＮＨＫ大河ドラマ特別展　「軍師官兵衛」	115	友
70	10月　3日	東京オリンピック・パラリンピック開催50年記念特別展 「東京オリンピックと新幹線」	52	友
71	平成27年 4月　7日	徳川家康没後400年記念特別展　「大 関ヶ原展」	186	友
72	6月　5日	2015年ＮＨＫ大河ドラマ特別展　「花燃ゆ」	73	友
73	8月　9日	特別展　「徳川の城　～天守と御殿～」	143	友
74	10月16日	特別展　「浮世絵から写真へ－視覚の文明開化－」	67	友
75	平成28年 1月22日	日伊国交樹立150周年記念特別展 「レオナルド・ダ・ヴィンチ－天才の挑戦」	101	友
76	5月13日	2016年NHK大河ドラマ特別展「真田丸」	139	友
77	7月　8日	特別展「大妖怪展　土偶から妖怪ウオッチまで」	63	友
78	9月16日	特別展「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」	101	友
79	11月25日	特別展「戦国時代展　A Century of Dreams」	115	友
80	平成29年 2月24日	特別展「江戸と北京－18世紀の都市と暮らし－」	88	友
81	5月12日	特別展「没後150年　坂本龍馬」	140	友
82	7月　7日	2017年NHK大河ドラマ「おんな城主　直虎」特別展 「戦国！井伊直虎から直政へ」	111	友
83	令和元年　7月12日	特別展「江戸のスポーツと東京オリンピック」	51	友
84	9月20日	特別展「士　サムライ－天下太平を支えた人びと－」	86	友
85	11月22日	特別展「大浮世絵展－歌麿、写楽、北斎、広重、国芳　夢の競演」	101	友
86	令和2年　2月14日	特別展 「江戸のものづくり列伝－ニッポンの美は職人の技と心に宿る－」	80	友
87	5月　1日	特別展「奇才－江戸絵画の冒険者たち－」	中止	友
88	7月17日	特別展「大江戸の華－武家の婚礼と商家の祭り－」（仮称） （20周年記念事業）	中止	友

（注１）平成17年度までは「企画展」、以後は「特別展」
（注２）備考欄の「内」は内覧会（一般公開前）、「特」は特別観覧会（一般公開後）、「友」は友の会特別観覧会（友の会単独の特別観覧会）
（注３）江戸博は平成29年（2017）10月から令和元年（2019）6月まで、ホール等の改修工事のため特別観覧会は中止
（注４）令和2年（2020）5月から7月まで新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言発出、館休館等により特別観覧会は中止

（6） 創作講座

No.	年度	年　月　日	講　座　名	講　　師	参加者数
1	平成13年度	平成14年 3月16日 ～ 17日	ちりめん・おさいくもの	内藤乃武子	29
2		3月23日 ～ 24日	江戸手描友禅	佐藤平八工房	26
3	平成14年度	平成15年 3月21日	江戸手描友禅	田中光江 佐藤平八工房	19
4	平成15年度	平成15年 7月12日	江戸扇子	松井宏（江戸扇子職人）	20
5		平成16年 2月 7日	江戸宙吹き硝子	三洋硝子	16
6		2月22日	江戸切子（実演）	須田秀石	3
7		2月29日	江戸切子（体験）	須田秀石	7
8		3月14日	手描友禅（実演）	田中光江 佐藤平八	16

（7） えど友研究発表会（えど友会員発表会）

No.	年　月　日	演　　題	発　表　者	参加者数
1	平成21年8月6日	芭蕉とお七～芭蕉　旅枕～ 永井荷風作『放水路』に込められたメッセージ 山下玄門にみる江戸末期医学事情の一端	杉浦隆之 寺島　玄 後藤幸子・野坂紘子	97
2	平成22年8月5日	輪王寺宮の歴史 江戸の踊り　かっぽれ踊り　伝承を探る	大渡眞司 鈴木正文	61
3	平成23年8月2日	車石について～車の歴史から見た江戸時代～ 浅草寺と岩井堂観音（飯能） 江戸東京の菓子を見る	落合大海 山崎　進 松本慶三	51
4	平成24年8月7日	『おくのほそ道』「室の八島」について～ 『カスリーン台風水害点描』を読み解く 元文期豊後節停止事件～その政治的背景～	松本美智子 寺島　玄 富士松松栄太夫	71
5	平成25年8月6日	享保諸国鍛治　御改めの研究 私が見た　聞いた「吉原遊廓」	佐藤幸彦 若松謙二	83
6	平成26年8月6日	江戸御府内八十八カ所について 浮世絵に見る江戸の名所と年中行事～東錦絵 江戸自慢～	松原　良 廣瀬尚美	129
7	平成27年8月4日	江戸の食生活で考えさせられたこと 富山の薬売り「反魂丹」のルーツ —創始者は備前の万代常閑—	須賀　靖 國定美津子	129
8	平成28年8月2日	徳川家康・鴻巣御殿とその周辺 田端文士村の成り立ち	早川良躬 内山文伸	56
9	平成29年8月1日	江戸の繁栄を築いた利根川東遷について 江戸町政における町火消の役割	土屋献一郎 若松謙二	103
えど友会員発表会				
10	令和元年8月6日	『夢の超特急』実現！ファンから見たその姿 ニット産業の始まりは徳川光圀の靴下から	横山昌弘 中村明義	62
11	令和2年8月14日	新型コロナウイルス感染防止対策により中止		

（注1） 江戸博は平成29年（2017年）10月から令和元年（2019年）6月までホール等改修工事のため、平成30年（2018年）度えど友研究発表会は実施せず。

（8） 学習会（地域文化探訪）

No.	実施日	訪問先	参加者数
1	平成24年 8月21日	文京ふるさと歴史館	33
2	平成25年 2月26日	千代田区立日比谷図書文化館	55
3	平成25年 8月27日	品川区立品川歴史館	60
4	平成25年10月23日	新宿区立新宿歴史博物館	64
5	平成26年 3月 2日	北区飛鳥山博物館	70
6	平成26年 8月20日	豊島区立郷土資料館	68
7	平成27年 2月18日	足立区立郷土博物館	44
8	平成27年 8月27日	板橋区立郷土資料館	43
9	平成28年 2月10日	中央区立郷土天文館（タイムドーム明石）	62
10	平成28年 8月10日	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	50
11	平成29年 2月 5日	目黒区立めぐろ歴史資料館	49
12	平成29年 8月29日	荒川区立荒川ふるさと文化館	36
13	平成30年 2月24日	すみだ郷土文化資料館	46
14	平成30年 8月17日	中野区立歴史民俗資料館	44
15	平成31年 2月14日	葛飾区郷土と天文の博物館	52
16	令和元年 8月 8日	港区立郷土歴史館	50
17	令和 2年 2月26日	大田区立郷土博物館	中止
18	令和 2年 8月 日	大田区立郷土博物館	中止

（注1） 新型コロナウイルス感染防止対策により催事自粛要請を受けて令和2年2月、8月の学習会は中止（延期）とした、令和3年2月の学習会は大田区郷土博物館改修工事のため開催せず。

（9） その他（特別企画）

回数	年 月 日	タイトル	講師、出演者	参加者数
1	平成26年 8月 1日	富岡製糸場の歴史と文化 ―ユネスコ世界遺産登録を祝って―	今井幹夫 （富岡製糸場総合研究センター所長）	227
2	平成27年 3月 6日	インド古典舞踊の鑑賞	インド古典舞踊ティラナ（Tillana Tokyo） メンバー島西他７名	161
3	平成29年 4月 1日	江戸の遺伝子	徳川恒孝 （徳川宗家十八代当主）	197

6　古文書翻刻事業

（1）　町方書上翻刻プロジェクト

年　月	主　な　で　き　ご　と
平成20年　5月	●市川寛明学芸員より「町方書上」翻刻の話が玉木会長に持ち込まれ、「古文書で『八丈実記』を読む会」で試験的な翻刻作業を開始
10月	●町方書上翻刻プロジェクト発足　　館との共同研究　ＷＥＢ発信を目指す 玉木会長（当時）と小澤室長との合意による（合意文書無し）
12月	●プロジェクトメンバーは、えど友サークル「古文書で『八丈実記』を読む会」のメンバー９名を中心に２組17名で構成し、翻刻作業を本格開始
平成21年　1月	●『えど友』新年号新春特集にて市川寛明学芸員に聞くを掲載 「町方書上プロジェクトについて」 出席者：玉木会長、プロジェクトより大野、丹羽、司会・松原
平成22年　8月18日	●友の会創立10周年記念事業「古文書に親しむ特別講演会」開催 講師：髙山慶子専門研究員「町方書上の魅力」、及び町方書上プロジェクトメンバーによる中間報告
平成23年　5月	●館の方針変更の通告 友の会との「共同研究」から「学術面での協力」に転換
平成24年　2月	●友の会の単独事業として継続する方針決定 役員会決定　ＷＥＢ発信から書物での刊行に転換
4月	●館との正式協議成立 松原会長（当時）と小澤室長間で文書取交し
平成25年　2月	●第１回配本　各70 ～ 75冊 第１巻 外神田他編、第２巻 浅草編、第７巻 深川編
2月24日	●『町方書上』発刊記念講演会及びパーティー 講師：市川寛明学芸員「町方書上の魅力」、髙山慶子宇都宮大学准教授「本所・深川の研究と町方書上」
平成26年　2月	●第２回配本　　各90冊 第３巻 湯島他編、第４巻 牛込他編、第５巻 青山他編
10月	●第３回配本　　各100冊　　本文翻刻全巻完了 第６巻 芝他編、第８巻 本所編
平成27年　4月	●読売新聞に紹介記事掲載 都内版　朝刊
5月	●全巻増刷　　各20冊
平成28年　1月	●「社会教育」誌上に紹介記事掲載
3月	●第４回配本　　100冊　第９巻　総索引　全巻刊行終了
3月31日	●『町方書上』翻刻完了記念講演会及びパーティー 講師：髙山慶子宇都宮大学准教授「江戸の名主」 ●町方書上翻刻プロジェクト解散

（2） 館蔵古文書翻刻プロジェクト

年　月	主　な　で　き　ご　と
平成26年10月	●『町方書上』翻刻完了後の翻刻ノウハウ・人材等の継承について検討開始
平成27年　2月	●役員会で「館蔵古文書翻刻プロジェクト」の設立を決定
3月	●博物館に協力要請
7月	●新規メンバー募集、準備期間
9月	●２チームによる翻刻活動開始 テキストはＡ班『新古改撰誌記』、Ｂ班『類聚撰要』（11月に「馬込家文書　旧記」に変更）
平成29年　6月	●Ｂ班『馬込家文書　旧記』の翻刻終了、江戸東京博物館へ提出 ●Ｂ班『米屋田中家文書』の翻刻開始
平成30年　4月	●『馬込家文書　旧記』が江戸博都市歴史研究室編の江戸博史料叢書として刊行 Ｂ班メンバーは翻刻協力者として氏名掲載　『えど友』104号に刊行紹介記事掲載
令和元年　4月	●江戸博側 支援学芸員に市川寛明学芸員の外に田中実穂学芸員が参加
7月	●Ａ班『新古改撰誌記』の第４巻までの翻刻終了、江戸博へ提出
9月	●Ｂ班『米屋田中家文書』の翻刻終了、江戸博へ提出 ●Ｂ班『文久三御用日記　上洛記　仁』ならびに『同・智』の翻刻開始
令和２年　4月	●『新古改撰誌記　1』が江戸博都市歴史研究室編の江戸博史料叢書として、『米屋田中家文書』が市川学芸員の名前で江戸博紀要第10号掲載論文として刊行 Ａ班・Ｂ班メンバーは翻刻協力者として氏名掲載　『えど友』116号に刊行紹介記事掲載
6月	●Ｂ班『文久三御用日記　上洛記　仁』ならびに『同・智』の翻刻終了 ●Ｂ班『米屋田中家文書　御下向御用留』の翻刻開始

『町方書上』寄贈先等一覧

寄贈先	住　所	電話番号	寄贈状況
国立国会図書館	〒100-8924　千代田区永田町1-10-1	TEL03-3506-5205	全巻
都立公文書館	〒158-0094　世田谷区玉川1-20-1	TEL03-3707-2601	全巻
江戸東京博物館	〒130-0015　墨田区横網1-4-1	TEL03-3626-9974	全巻
都立中央図書館	〒106-8575　港区南麻布5-7-13	TEL03-3442-8451	全巻
台東区立中央図書館	〒111-0035　台東区西浅草3-25-16	TEL03-5246-5911	全巻
新宿区立中央図書館	〒161-0033　新宿区下落合1-9-8	TEL03-3364-1421	全巻
渋谷区立中央図書館	〒150-0001　渋谷区神宮前1-4-1	TEL03-3403-2591	全巻
千代田区立中央図書館	〒102-0074　千代田区九段南1-2-1	TEL03-5211-4289	全巻
文京区立真砂中央図書館	〒113-0033　文京区本郷4-8-15	TEL03-3815-6801	全巻
品川区立品川図書館	〒140-0001　品川区北品川2-32-3	TEL03-3471-4667	全巻
江東区立深川図書館	〒135-0024　江東区清澄3-3-39	TEL03-3641-0062	全巻
目黒区立中央図書館	〒152-0023　目黒区八雲１-1-1	TEL03-5701-2795	全巻
墨田区立緑図書館	〒130-0021　墨田区緑2-24-3	TEL03-3631-4621	全巻
港区立みなと図書館	〒105-0011　港区芝公園3-2-25	TEL03-3437-6621	全巻
豊島区立中央図書館	〒170-8442　豊島区東池袋4-5-2	TEL03-3983-7861	３巻のみ
北区立中央図書館	〒114-0033　北区十条台1-2-5	TEL03-5993-1125	全巻
板橋区立中央図書館	〒174-0071　板橋区常盤台1-13-25	TEL03-3967-5261	全巻
新宿区立新宿歴史博物館	〒160-0008　新宿区三栄町22	TEL03-3359-2131	全巻
江東区深川江戸資料館	〒135-0021　江東区白河1-3-28	TEL03-3630-8625	７巻のみ
大阪府立中央図書館	〒577-0011　東大阪市荒木北1-2-1	TEL06-6745-0170	全巻
日大理工学部図書館	〒101-8308　千代田区神田駿河台1-6	TEL03-3259-0637	全巻
コロンビア大学 Ｃ．Ｖ．スター東亜図書館	アメリカ合衆国ニューヨーク州		全巻
カリフォルニア州立大学 バークレイ校　東アジア図書館	アメリカ合衆国カリフォルニア州		全巻
スタンフォード大学 東アジア図書館	アメリカ合衆国カリフォルニア州		全巻

7　会報『えど友』（Web版を含む）のあゆみ

会報も多くの曲折を経て現在の形になってきましたが、以下その足跡の概略をたどってみます。

◆創刊号～60号（平成13年7月～平成23年3月）

（1）　主なできごと

年　月	号　数	トピックス、特集記事など	備　考
平成13年　7月	創刊号	●「友の会が盛大にスタート」を報じる ●全6頁、「友の会会報」が会報名	
8月	2号	●2頁の簡易版、会報の愛称を公募	
10月	3号	●引き続き、会報の愛称を公募 ●「江戸友ぷらざ」欄を新設 ●8頁と内容も増える	
12月	4号	●4頁に減る ●会報の愛称が『えど友』に決まる	
平成14年　1月	5号	●会報の愛称『えど友』を本号より使用 ●「新春特集」スタート、以後毎年同時期に掲載 ●この号から、2カ月に1回、奇数月1日付の発行となる ●「江戸友ぷらざ」は「えど友プラザ」に改称 ●この号から13号まで8頁	30頁参照
9月	― 9号	●友の会ホームページ〈えど友〉Web版　開設 ●連載企画「名店めぐり」スタート	31頁参照
11月	10号	●「江戸博クリップ」欄（江戸博の学芸員や専門研究員、事務職など職員の方によるエッセイ）新設	
平成15年　7月	14号	●12頁に増える	
9月	15号	●12頁で、まちまちだった紙の色もこれ以後ベージュになる	
11月	16号	●「会報アンケート結果の報告」を掲載 ●「会議・会合日誌」欄新設 ●10頁に減る	
平成16年　1月	17号	●この号以後12頁が定着	
3月	18号	●「友の会実態調査の報告」を掲載	
8月	―	●友の会ホームページ〈えど友〉Web版　休止	
9月	21号	●特集「わたしとお江戸」掲載	
10月	―	●友の会ホームページ〈えど友〉Web版　再開	
11月	22号	●「えど友サークル」の発足を報じる ●連載企画「名店めぐり」は本号（第14回）で終了	
平成17年　1月	23号	●「えど友サークルだより」欄新設 ●連載企画「江戸博界隈・ちょっと寄ってみませんか」スタート	31頁参照

年　月	号　数	トピックス、特集記事など	備　考
平成17年　5月	25号	●体裁、紙の色、現在のものになる（平成23年3月　60号現在）	
9月	27号	●特別展関連「美しき日本―大正昭和の旅展」（小山周子学芸員に聞く）を掲載	
平成18年　3月	30号	●特集［初代役員が語る「友の会発足のころ」］掲載 ●「ご意見・ご要望にお答えします」を初めて掲載、以後随時掲載	
11月	34号	●［データで見る「友の会の構成」］を掲載、以後毎年同時期に掲載 ●連載企画「江戸博界隈・ちょっと寄ってみませんか」は本号（第12回）で終了	
平成19年　1月	35号	●連載企画「江戸博から大川を渡って…」スタート	31頁参照
9月	39号	●特別展関連「文豪・夏目漱石展」（橋本由起子学芸員、金子未佳学芸員に聞く）を掲載	
11月	40号	●連載企画「江戸博から大川を渡って…」は本号（第6回）で終了	
平成20年　3月	42号	●連載企画「落語で江戸散歩」スタート	34頁参照
9月	45号	●特別展関連「浅草今昔展」（沓沢博行学芸員に聞く）を掲載	
平成21年　3月	48号	●特別展関連「薩摩焼～パリと篤姫を魅了した伝統の美～」（橋本由起子学芸員に聞く）を掲載	
9月	51号	●特別展関連「よみがえる浮世絵～うるわしき大正新版画展」（小山周子学芸員に聞く）を掲載	
平成22年　3月	54号	●「友の会創立10周年記念事業」の概略を紹介	
9月	57号	●特別展関連「隅田川～江戸が愛した風景～」（我妻直美学芸員に聞く）を掲載	
平成23年　1月	59号	●「会員が選ぶ東京新百景写真展」報告を掲載	
3月	60号	●特別展関連「五百羅漢　増上寺秘蔵の仏画　幕末の絵師　狩野一信」（橋本由起子学芸員に聞く）を掲載	

※こうした流れの中で、『えど友』が会の歴史を記録するという大きな役割を果たす一方、もう一つ『えど友』には『えど友』ならではの特徴があります。それは“江戸っぽさ”を意識した特集や連載企画です。特に「新春特集」や「名店めぐり」をはじめとする連載企画は各号のタイトルなどを記録しておく価値が十分あるものですので、以下に項をあらためてまとめてみました。

（2） 新春特集

年　月	号数	テ　ー　マ	座談会出席者など		
			江戸博	友の会	友の会構成記録
平成14年 1月	5号	竹内誠館長に聞く 江戸前で拝んだ初日の出	竹内誠館長	山口千恵子 岡橋園子	大松騏一
平成15年 1月	11号	小澤弘教授、原史彦学芸員に聞く 江戸開府400年・開館10周年記念 大江戸八百八町を語る	小澤弘教授 原史彦学芸員	巻渕彰 岩松精	大松騏一
平成16年 1月	17号	北原進教授に聞く 心豊かな江戸に学ぶ知恵	北原進教授	山口千恵子 大野晴美 大松騏一	岡橋園子 松原良
平成17年 1月	23号	近松鴻二さんに聞く 太陽と月をもとにさまざまな暦が誕生	学芸課 近松鴻二	井上敏子 後藤幸子 松原良	岡橋園子 松原良
平成18年 1月	29号	松井かおる学芸員に聞く 縁起物をめぐって	松井かおる 学芸員	清水昌紘 岡田守弘 岡東和子 松原良	岡橋園子
平成19年 1月	35号	齋藤慎一学芸員に聞く 特別展「江戸城」をめぐって	齋藤慎一 学芸員	山本隆 岡橋園子 菊池紀子 松原良	林榮二
平成20年 1月	41号	岩城紀子学芸員・記述 お正月　みかん召しませ　双六遊び	岩城紀子 学芸員		
平成21年 1月	47号	市川寛明学芸員に聞く 文政町方書上翻刻プロジェクト 地球の裏側でも江戸の町がわかるために	市川寛明 学芸員	玉木達二 大野晴美 丹羽高利 松原良	岡橋園子
平成22年 1月	53号	石山秀和学芸員に聞く 江戸時代、子供たちはお正月をどう過ごしていた？	石山秀和 学芸員	小林弘明 深尾恵美子 藤井文乃 松原良	福島信一
平成23年 1月	59号	齋藤優美学芸員に聞く 明治初期、「うさぎ」は人気者！	齋藤優美 学芸員	松原良 大澤憲一 佐藤美代子 大屋のり子 福島信一	中村貞子

（3） 連載企画

●江戸東京博物館ミュージアムショップ　名店めぐり

年　月	号数	文・写真など	内　　容
平成14年9月 〜 平成16年11月	9号 〜 22号	文　：岡橋園子 　　大野晴美 写真：佐藤幸彦 　　菅沼和男	〈1〉蜂密が自慢　人形焼「山田屋」 〈2〉伝統の技「長谷川象牙工芸所」 〈3〉江戸の味を今に「言問団子」 〈4〉創業享保2年「長命寺　桜もち」 〈5〉銀座で摺る「渡邊木版美術舗」 〈6〉千代紙と幼い日々「いせ辰」 〈7〉ウミガメと相撲？「磯貝ベッ甲専門店」 〈8〉江戸クリスタル「黒川硝子工芸」 〈9〉江戸更紗「株式会社　二葉」 〈10〉伝承芸術がつくり出した味　麩饅頭「ふいち」 〈11〉繊細な木彫りの楽しさ「松本彫刻店」 〈12〉涼を呼ぶ、釣りしのぶ「江戸川萬園」 〈13〉すす竹にこだわる「萩原竹製品製作所」 〈14〉上品でヘルシーな野菜菓子「梅鉢屋」

●江戸博界隈・ちょっと寄ってみませんか

年　月	号数	文・写真など	内　　容
平成17年1月 〜 平成18年11月	23号 〜 34号	文　：大野晴美 写真：松原良 地図：松原良	①　回向院／江戸蕎麦・ほそ川 ②　吉良邸跡／どぜう・桔梗家 ③　旧安田庭園／天ぷら・天亀八 ④　隅田川橋めぐり・1／麦酒倶楽部・ポパイの台所 ⑤　都立横網町公園／中国料理・江城 ⑥　報恩寺／亀井鮨 ⑦　深川七福神／第一ホテル両国・レストラン・さくら ⑧　隅田川橋めぐり・2／沖縄料理・ちゅらさん家 ⑨　史跡めぐり／しゃも料理・かど家 ⑩　両国花火資料館と隅田川花火大会／イタリア料理・アレグレッツア ⑪　芥川龍之介と両国／炭焼ステーキ・くに ⑫　相撲博物館／ちゃんこ・巴潟

●江戸博から大川を渡って…

年　月	号数	文・写真など	内　　容
平成19年1月 〜 平成19年11月	35号 〜 40号	文　　：大石憲一 写真　：松原良 イラスト：松原良	①　柳橋・浅草橋界隈 ②　蔵前・浅草橋界隈 ③　蔵前・駒形界隈 ④　花川戸・今戸界隈 ⑤　ユニーク問屋街 ⑥　史跡めぐりの便利バス

※42号から始まった「落語で江戸散歩」は、◆61号 〜 119号の（2）連載企画（34頁）にまとめました。

◆61号～119号（平成23年5月～令和3年3月）

（1） トップ記事・トピックス

年 月	号 数	トップ記事タイトル・トピックス（●）	文（取材、記録）	写 真
平成23年 5月	61号	東日本大震災対応のご報告	松原良	
7月	62号	平成23年度　定期総会開催	原盛年	佐藤幸彦
9月	63号	『二人の貴婦人』はじめ、多くが日本初公開	平林美幸	
11月	64号	友の会の構成 会員数は横ばい、平均年齢は微増で65.8歳	天野哲夫	
平成24年 1月	65号	新春特集 「たつ年に、辰・龍（竜）をめぐって」	内匠屋京子	内匠屋京子
		●WEB版（えど友ホームページ）担当者交代 （岡田守弘→前田太門）		
3月	66号	エッフェル塔の資料や館蔵品の初公開も（ザ・タワー）	佐藤美代子	福島信一
5月	67号	楽しみな「上野の山」の化粧直し	菅沼和男	
		●新方針による編集開始 ―江戸東京に関する事物をタイムリーに取り上げるトップ記事 ―紙の色をベージュからクリーム色に変更 ―「えど友プラザ」は「えど友広小路」とタイトル変更、 「会議・会合日誌」を「友の会めも」に変更 ―１０頁の連載企画「江戸名所図会を歩く」が開始 ●えど友ホームページを一新 ―読みやすく、視覚的にわかりやすいデザインに変更 ―会報『えど友』を創刊号から閲覧できるようにした ―江戸、東京に関する情報を得られるリンク集を開設		
7月	68号	竹内誠館長記念講演「紀伊国屋文左衛門の実像」	佐藤美代子	五十島正修
		●モニター（10人）を募集し、誌面リニューアルについての アンケートを72号まで5回にわたって行った		
9月	69号	東京駅丸の内駅舎の復原完成間近	前田太門	
11月	70号	ようやく訪れた秋の一日「江戸東京たてもの園」を散策	福島信一	福島信一
平成25年 1月	71号	新春特集「笑う門には福来る」	天野哲夫	天野哲夫
3月	72号	戦後初！江戸から続く善光寺の出開帳	中村貞子	
5月	73号	堀切に「江戸花菖蒲」のルーツを訪ねる	五十島正修	五十島正修
7月	74号	竹内館長記念講演「幕末維新期を生き抜いた女性たち」	佐藤美代子	佐藤幸彦
		●編集長交代（松原良→中村貞子）		
9月	75号	行ってみよう　巡ってみよう！ 都内の貴重な文化財　東京文化財ウィーク2013	佐藤美代子	
11月	76号	年末の風物詩「酉の市」―そのルーツを探る！―	光田憲雄	光田憲雄
平成26年 1月	77号	新春特集「江戸博20年の歩み、あれこれ－小林副館長に聞く－」	中村貞子	中村貞子

年　月	号　数	トップ記事タイトル・トピックス（●）	文（取材、記録）	写 真
3月	78号	江戸で桜を愛でる ～江戸っ子の春のメインイベント「お花見」を探訪～	佐藤美代子	
		●この号よりWEB版の『えど友』紙面の写真をカラーで掲載開始		
5月	79号	江戸・東京の庭園を巡る① 徳川家ゆかりの庭園「浜離宮恩賜庭園」「小石川後楽園」	菊池真一	菊池真一
7月	80号	竹内館長記念講演 「関ヶ原の戦いの裏舞台　―黒田官兵衛と長政―」	前田太門	前田太門
9月	81号	江戸・東京の庭園を巡る② 岩崎家の築いた庭園「清澄庭園」「旧岩崎邸庭園」「殿ヶ谷戸庭園」	菊池真一	菊池真一
		●試みとして紙の色を白色にして、半分（6頁）をカラー印刷で発行		
11月	82号	秋から冬へ　王子・滝野川界隈をめぐって ●従来通りの紙色、モノクロ印刷で発行	岡本脩	岡本脩
平成27年　1月	83号	新春特集 「常設展示室リニューアルへの歩み ―竹内館長に聞く―」	前田太門	
		●この号より全頁カラー印刷とし、紙の色を薄クリーム色とする。WEB版も同様に全頁カラーとなる ●不定期掲載の企画記事「えど東京一景」開始		
3月	84号	江戸・東京の庭園を巡る③ 江戸の大名庭園　「六義園」「旧芝離宮恩賜庭園」	菊池真一	菊池真一
5月	85号	東京都庭園美術館を訪ねて	前田太門	前田太門
7月	86号	竹内館長記念講演「浅草の今と昔を語る」	前田太門	前田太門
		●「江戸名所図会を歩く」の執筆者交代（中村貞子→菊池真一）		
9月	87号	江戸・東京の庭園を巡る④ 花を楽しむ庭園　「向島百花園」「旧古河庭園」	菊池真一	菊池真一
11月	88号	江戸・東京 下町めぐり　日本橋小網町	岡本脩	岡本脩
平成28年　1月	89号	新春座談会「七福神をめぐって」	前田太門	前田太門 菊池真一
3月	90号	帰ってきた台徳院殿霊廟模型―増上寺宝物展示室―	中村貞子	
5月	91号	神田明神と平将門伝説 ―主祭神より末席祭神が表に出る不思議な神社―	光田　憲雄	光田　憲雄
7月	92号	竹内館長記念講演「浅草寺日記」の世界	岡本　脩	岡本　脩
9月	93号	江戸・東京下町めぐり　日本橋蛎殻町 ～江戸っ子かたぎの粋な町～	岡本　脩	岡本　脩
11月	94号	築地の歴史探訪	前田　太門	前田　太門

年　月	号　数	トップ記事タイトル・トピックス（●）	文（取材、記録）	写 真
平成29年　1月	95号	新春特集　墨田に名所がまたひとつ　すみだ北斎美術館開館	大橋　弘依	大橋　弘依
3月	96号	荒川の五色桜　～江戸で生まれた里桜は海を渡った～	佐藤　美代子	
5月	97号	ぶらり下町散歩　小さな町、亀戸の七福神を巡って	福島　信一	福島　信一
7月	98号	藤森館長記念講演「茶室とわたし」	大橋　弘依	大橋　弘依
		●『えど友』100号記念投稿（文章・写真）募集のお知らせを掲載		
9月	99号	首都東京の表玄関　東京駅100年のものがたり　丸の内・八重洲	岡本　脩	岡本　脩
11月	100号	会報『えど友』100号の歩み	中村　貞子	福島　信一
平成30年　1月	101号	新春特集　大名屋敷の松飾り	光田　憲雄	光田　憲雄
3月	102号	増上寺徳川家霊廟の遺産を訪ねる　―狭山山不動寺―	中村　貞子	中村　貞子
5月	103号	江戸の「とき」と庶民のくらし	大橋　弘依	大橋　弘依
7月	104号	竹内名誉館長記念講演「西郷隆盛　因縁ばなし」	岡本　脩	岡本　脩
9月	105号	150年前―存亡の淵に立っていた江戸（東京）	福島　信一	
11月	106号	女流文学の先駆者　一葉の足跡を訪ねて	内匠屋　京子	内匠屋　京子
平成31年　1月	107号	新春特集　江戸の正月風景 ―現在まで続いているもの　姿を消したもの―	光田　憲雄	
3月	108号	江戸・東京の庶民に愛され続ける　飛鳥山300年のものがたり	岡本　脩	岡本　脩
令和元年　5月	109号	江戸の夏行事～今に継承されているものの由来～	光田　憲雄	
7月	110号	藤森館長記念講演「日本の洋館」	大橋　弘依	中村　貞子
9月	111号	江戸・東京 下町めぐり　日本橋浜町 ～大川端、風情あふれる町～	岡本　脩	岡本　脩
11月	112号	地下鉄銀座線の開通とデパート	前田　太門	前田　太門
令和2年　1月	113号	新春特集　今年、創建100年を迎える明治神宮	福島　信一	福島　信一
3月	114号	享保から令和へ　続・飛鳥山300年のものがたり	岡本　脩	
5月	115号	江戸の広告事情（上）　―看板・暖簾・引札・錦絵―	菊池　真一	
7月		●コロナ禍で友の会の活動自粛のため会報発行は繰り下げ、催事案内/会員優待のみ臨時発行		
9月	116号	江戸の災害　―安政江戸地震―	前田　太門	
		●活動自粛の影響により、12頁を8頁に減らして発行。 ●「江戸名所図会を歩く」の執筆者交代　（菊池真一→中村貞子）		
11月	117号	江戸の広告事情（下）　―歌舞伎・景品・案内書・見立番付―	菊池　真一	
令和3年　1月	118号	新春特集　江戸時代　宮廷の正月行事	光田　憲雄	
3月	119号	江戸・東京下町めぐり　日本橋大伝馬町・小伝馬町・本町	岡本　脩	岡本　脩

（2） 連載企画

●落語で江戸散歩

年　月	号数	文・写真など	内　　容
平成20年3月 〜 平成22年1月	42号 〜 53号	文　　：稲垣武志 写真　　：稲垣武志 イラスト：松原良	①　野ざらし ②　堀の内 ③　道灌 ④　大山詣り ⑤　疝気の虫 ⑥　芝浜 ⑦　井戸の茶碗 ⑧　長屋の花見 ⑨　黄金餅 ⑩　品川心中 ⑪　佃祭 ⑫　天災
平成22年3月 〜 平成23年7月	54号 〜 62号	文　　：岡田守弘 写真　　：岡田守弘 イラスト：松原良	⑬　中村仲蔵 ⑭　文七元結 ⑮　三方一両損 ⑯　崇徳院 ⑰　唐茄子屋政談 ⑱　孝行糖 ⑲　おせつ徳三郎 ⑳　なめる ㉑　たがや
平成23年9月 〜 平成24年3月	63号 〜 66号	文　　：松原良 写真　　：松原良 イラスト：松原良	㉒　首提灯 ㉓　目黒のさんま ㉔　王子の狐 ㉕　加賀の千代

●江戸名所図会を歩く

年　月	号数	文・写真など	内　　容
平成24年5月 〜 平成27年5月	67号 〜 85号	文　：中村貞子 写真：中村貞子	①　和田倉門から石町時の鐘 ②　田安の台から柳森神社 ③　於玉稲荷から吉原町旧地 ④　賀茂真淵翁閑居地から三ツ橋 ⑤　霊岸島から鎧島 ⑥　西本願寺から新橋 ⑦　三縁山増上寺 ⑧　飯倉神明宮から愛宕山権現社 ⑨　萬年山青松寺から赤羽橋 ⑩　芝浦から月波樓 ⑪　三田八幡宮から高輪ヶ原 ⑫　萬松山泉岳寺から谷山 ⑬　萬松山東海禅寺から貴船明神社 ⑭　経王山本光寺から補陀落山海晏寺 ⑮　鮫頭明神祠から鈴森八幡宮 ⑯　八幡山行慶寺から長栄山本門寺 ⑰　慈眼山萬福寺から光明寺池 ⑱　新田大明神社から六郷渡 ⑲　貴舩明神社から要島辨財天社

年　月	号数	文・写真など	内　　容
平成27年7月 〜 令和2年5月	86号 〜 115号	文　：菊池真一 写真：菊池真一	⑳ 日吉山王神社から清水坂 ㉑ 桜田から氷川明神社 ㉒ 霞山稲荷明神祠から冬嶺山松秀寺 ㉓ 最正山覚林寺から誕生八幡宮 ㉔ 行人坂から大鳥大明神社 ㉕ 千代が崎から致航山満願寺 ㉖ 赤坂御門から崑崙山玉窓寺 ㉗ 長青山梅窓院から笄橋 ㉘ 氷川明神社から神仙水 ㉙ 駒場野から正一位子の明神社 ㉚ 北沢淡島明神社から八幡山宗円禅寺 ㉛ 大渓山豪徳禅寺から世田谷八幡宮 ㉜ 龍華山永安寺から氷川明神社 ㉝ 四谷から四谷大木戸 ㉞ 内藤新宿から永固山一行院 ㉟ 新日暮里から鬼子母神 ㊱ 市谷八幡宮から紅葉山西迎寺 ㊲ 医光山円照寺から明王山宝仙寺 ㊳ 阿佐谷神明宮から幡ヶ谷不動明王 ㊴ 筑土八幡宮から赤城明神社 ㊵ 蔭涼山済松寺から正定山幸国寺 ㊶ 高田八幡宮から高田七面堂 ㊷ 俤の橋から落合土橋 ㊸ 牛天神社から駒留橋 ㊹ 大法山本傳寺から妙永山本納寺 ㊺ 無量山伝通院から白山神社 ㊻ 氷川明神社から 木下稲荷祠 ㊼ 清水坂から西台山円福寺 ㊽ 大堂から十羅刹女の宮 ㊾ 谷原山長命密寺から石神井明神祠
令和2年9月 〜 令和3年3月	116号 〜 119号	文　：中村貞子 写真：中村貞子	㊿ 聖堂から妻恋大明神社 (51) 湯島天満宮から中島辨財天 (52) 東叡山寛永寺（前） (53) 東叡山寛永寺（後）

●「えど東京一景」

年　月	号数	文	イラスト	内　　容
平成27年 1月	83号	福島信一	福島信一	（1）―石濱神社―
3月	84号	佐藤幸彦	福島信一	（2）―豊川稲荷―
11月	88号	光田憲雄	福島信一	（3）―目黒富士―
平成28年 1月	89号	菊池真一	福島信一	（4）―六郷用水―
9月	93号	岡本　脩	福島信一	（5）―不忍池弁天堂―
平成29年 3月	96号	福島信一	福島信一	（6）―筑土八幡神社―
11月	100号	菊池真一	福島信一	（7）―旧細川侯爵邸（和敬塾本館）―
平成30年 1月	101号	内匠屋京子	福島信一	（8）―東京大神宮―
3月	102号	岡本　脩	福島信一	（9）―無量寺―
5月	103号	中村貞子	福島信一	（10）―東博のユリノキ―
7月	104号	岡本　脩	福島信一	（11）―日本橋と首都高―
9月	105号	前田太門	福島信一	（12）―芝 大門―
11月	106号	大橋弘依	福島信一	（13）―赤坂日枝神社―

年　月	号数	文　イラスト	内　容
平成31年 1月	107号	佐藤美代子　福島信一	（14）―南千住 素盞雄神社―
3月	108号	岡本　脩　福島信一	（15）―王子 旧醸造試験所―
令和元年 5月	109号	菊池真一　福島信一	（16）―檜町公園―
7月	110号	前田太門　福島信一	（17）―竹芝・日の出―
9月	111号	内匠屋京子　福島信一	（18）―旧古河庭園―
11月	112号	福田　徹　福島信一	（19）―王子の「狐の行列」―
令和2年 1月	113号	佐藤美代子　福島信一	（20）―柴又帝釈天―
3月	114号	菊池真一　福島信一	（21）―田園調布駅旧駅舎―
5月	115号	内匠屋京子　福島信一	（22）―旧東叡山寛永寺五重塔（旧東照宮五重塔）―
9月	116号	福田　徹　福島信一	（23）―水元公園　閘門橋―
11月	117号	菊池真一　福島信一	（24）―多摩川台公園―
令和3年 1月	118号	岡本　脩　福島信一	（25）―二重橋―
3月	119号	菊池真一　福島信一	（26）―洗足池公園―

●『えど友』100号記念投稿「東京風景いまむかし」

年　月	号数	筆者	内　容
平成29年11月	100号	中山　徹	広重の描いた浅草寺
		大橋　弘依	消えていく銅板建築
平成30年 1月	101号	林　正信	「久我山稲荷神社」の庚申塔
		菊池　真一	東急文化会館の思い出
3月	102号	岡本　脩	有楽町「日劇」
		小島　弥生（所蔵）	「東京名所」写真はがき
5月	103号	若松　謙二	昭和20年代後半の浅草興行街・国際劇場と瓢箪池
		井上　孝	都電の乗換券
7月	104号	佐藤　美代子	昭和30年の上野動物園
		西村　英夫	御茶ノ水界隈―昭和39年
		山本　隆	歴史の重み―日本工業倶楽部会館
9月	105号	小笠原　広樹	ちょっと立ち寄り・銀座一丁目の旧アパルトマン
11月	106号	天野　哲夫	玉　電
平成31年 1月	107号	大川　正明	戦前昭和のまち並み

8　創立周年記念事業

友の会では創立記念事業として5年ごとに周年記念事業を行いました。以下は、その記録です。今後の周年記念事業は、どんな記念事業ができるか、大いに楽しみです。

（1）　5周年記念事業

年　月　日	事　業　内　容　な　ど	備　　考
平成18年2月	［『えど友』に見る5年のあゆみ］刊行	●全会員に配布
平成18年3月23日	記念講演会 江戸東京博物館　竹内誠館長 「江戸幕政の展開と紀州閥の形成」	●江戸博1階ホールで開催

（2）　10周年記念事業

年　月　日	事　業　内　容　な　ど	備　　考
平成22年8月18日	**第1弾　「古文書に親しむ特別講演会」** 江戸東京博物館　高山慶子専門研究員 「江戸の歴史と町方書上」 国立公文書館　小宮山敏和 「江戸城の危機管理―将軍不在時の江戸・江戸城」 ほかに、文政町方書上翻刻プロジェクト・メンバー 大野晴美による中間報告	●江戸博1階ホールで開催 ●参加者219人 ●参加費無料
平成22年8月	**第2弾　記念グッズの配布** 江戸風模様のオリジナルバッグと風呂敷	●全会員に配布
平成22年9月4日	**第3弾　見学会** 「川面から見る江戸東京」 （船でめぐる小名木川、日本橋川、神田川）	●協力「神田川船の会」 ●参加者290人 ●会員には会から補助をして格安料金
平成22年9月24日	**第4弾　友の会特別観覧会** 特別展「隅田川～江戸が愛した風景～」 江戸東京博物館　我妻直美学芸員「見どころ解説」 のあと、特別展を観覧	●江戸博1階ホールおよび企画展示室で開催 ●参加者 199人 ●参加費無料
	第5弾　会員が選ぶ東京新百景	
平成22年3月～7月	写真の募集：応募総数　559点 （募集要項にそぐわないもの7点を除き、552点を審査へ）	●数回にわたり募集要項のビラを配布
9月24・25日	一次審査：会員63人が一次審査員として参加、入選作100点を選ぶ	●江戸博1階学習室を借り、全作品を床に展示
9月29日	二次審査：江戸博小澤弘教授を委員長とする10人の委員会で投票により入賞作10点を選ぶ	●両国駅長にも審査に参加していただく
11月1日	図録『江戸東京博物館友の会　会員が選ぶ東京新百景』刊行	●全会員に配布
11月2日	入賞者表彰式	●展覧会開会式をかねる
11月2～7日	入選作品展覧会　JR両国駅構内にて開催、来場者2,096人	●予想をはるかに超える来場者があり、大盛況
平成22年12月25日	**第6弾　友の会セミナー** 東京学芸大学　大石学教授 「江戸の政治改革―将軍吉宗VS尾張宗春―」	●江戸博1階ホールで開催 ●参加者 313人 ●参加費無料
平成24年3月31日	『友の会10年のあゆみ』刊行	●全会員に配布

（3） 15周年記念事業

年　月　日	事　業　内　容　な　ど	備　　考
平成27年9月25日	**◆特別見学会** 「浅草見番で味わう花街＆江戸情緒」	●参加者89人
平成27年9月30日	**◆特別見学会** 「両国国技館と相撲博物館」	●参加者152人
平成28年2月28日	**◆特別セミナー** 「真田の魅力－兄と弟の戦国時代」 小和田哲男（静岡大学名誉教授・文学博士）	●江戸博1階ホールで開催 ●参加者333人 ●参加費無料
平成27年12月1日	**◆感謝状・記念品贈呈** 連続15年更新会員に感謝状と記念品〔オリジナル手ぬぐいと図書カード（1000円分）〕を送呈 15年更新時に逐次送呈	
平成28年4月1日	**◆『友の会15年のあゆみ』刊行**	●全会員に配布
平成28年6月	**◆『江戸東京博物館　常設展示室図録』の配布**	●全会員に配布

（4） 20周年記念事業

年　月　日	事　業　内　容　な　ど	備　　考
令和2年8月18日	**◆特別セミナー** 「明智光秀の実像に迫る」 小和田哲男（静岡大学名誉教授）	●江戸博1階ホールで開催 ●参加者142人 ●参加費無料
令和3年4月1日	**◆『友の会20年のあゆみ』刊行**	●全会員に配布

9　開館10周年、15周年および20周年記念品贈呈

友の会では江戸博の開館10周年、15周年、20周年にあたり、それぞれ記念品の贈呈を行いましたが、以下は会報『えど友』に残されている、その記録です。5年ごとの記念品贈呈ですが、開館5周年のときはまだ友の会が発足していなかったのです。今後25周年、30周年と記念品の贈呈ができるよう、友の会をさらに発展させていきたいものです。

（1）　開館10周年記念品贈呈

『えど友』第19号（平成16年5月1日発行）1ページより

開館10周年を祝い友の会から記念品を贈る～研究資料に、大宅文庫CD-ROM～

江戸東京博物館の開館10周年を祝して、友の会から博物館に記念品を贈ることになり、その贈呈式が3月29日（月）博物館応接室で行われました。

友の会山本市郎会長から「10周年をお祝いして何かお役に立つことはできないかと検討した結果、記念品をお贈りすることになりましたのでお収めください」とあいさつがあり、記念品の内容について佐山彪副会長から説明があって、記念品が竹内誠館長に手渡されました。

これを受けて館長から「こんな厳しい時勢に助かります。本当にいいものをいただきました。学芸員の研究に活用させていただきます」とのお礼の言葉があり、贈呈式を終わりました。

贈呈した記念品は紀伊国屋書店制作のCD-ROM「大宅壮一文庫創刊号コレクションシリーズ」で、「明治編」「大正編（一）」「大正編（二）」「大正編（三）」の全4巻（定価約33万円）です。対象となる雑誌は全部で600余を所収、その各創刊号の表紙から裏表紙まで広告を含むすべてのページが画像で閲覧できます。

今後は職員図書室に置かれ、研究資料の検索などに活用していただくことになります。

（2）　開館15周年記念品贈呈

『えど友』第47号（平成21年9月1日発行）9ページより

開館15周年を祝し記念品を贈呈―常設展示室に置時計―

江戸博の開館15周年を祝して、友の会から江戸博に記念品を贈ることになり、その贈呈式が11月26日（水）江戸博応接室で行われました。

贈呈式には江戸博から竹内館長、木村副館長はじめ関係の方々、友の会から玉木会長、佐藤・後藤両副会長、山本元会長、岩松前会長などが列席、まず友の会玉木会長から「15周年をお祝いして何かお役に立つことをできないかと検討した結果、記念品をお贈りすることになりましたのでお収めください」とあいさつがあり、記念品を置時計にした経緯などについて説明がありました。

これを受けて竹内館長から「10周年のときも記念品として『大宅壮一文庫創刊号コレクションシリーズ』をいただき活用しておりますが、今回15周年でもこのような記念品をいただき、友の会のみなさんには日頃のご支援と合わせて本当に感謝しています」とのお礼のお言葉がありました。

贈呈した記念品はセイコークロック置時計（ホールクロック）HW533Bという立派な時計です。時計の左側面には「寄贈　開館十五周年記念　江戸東京博物館友の会　平成二十年三月二十八日」と記されています。今後は常設展示室５階カウンター付近に設置され、多くの来館者のお役に立つことになります。

（3） 開館20周年記念品贈呈

『えど友』第74号（平成25年7月1日発行）7ページより

開館20周年記念品贈呈式

1階ホールのロビーに江戸博開館20周年を記念して、友の会が寄贈した置時計が設置されています。

4月23日（火）の午後4時からこの置時計の前で贈呈式が行われました。友の会の松原会長から竹内館長に目録が手渡され、館長はじめ他の役職の方々と一緒に記念撮影をして無事にセレモニーは終了しました。

10 えど友サークルの活動

友の会には同好の士がグループ活動を楽しむ場として「えど友サークル」という仕組みがあります。この制度は平成16年に発足していますが、それ以後多くの会員の参加もあり、友の会の楽しみの一つとして定着しています。以下その概略を記録としてまとめました。

設立年月	サークル名	活　動　内　容	（発起人） 現世話人	年間参加者数	
				年度	延人数
平成16年10月	**江戸の理解を深める会**	いろんな角度から江戸についての研究を発表し合い、理解を深める	（野村和正）	平成16年	18
平成17年 7月	**藩史研究会** （「江戸の理解を深める会」として発足。後に改称し再発足）	当初は江戸をよく知ることを目標としたが、後に、各藩の歴史を学び発表することで、自己啓発と相互学習を図り、併せて当該大名の墓域を参拝することを目標にした。 平成28年1月、研究会を改編。全国の藩の研究発表と資料収集等により興味や知識を深めている。	（大渡真司） 國定美津子	平成17年 18年 19年 20年 21年 22年 23年 24年 25年 26年 27年 28年 29年 30年 令和元年 2年	146 196 231 264 320 307 260 223 226 198 208 151 145 146 130 105
平成16年10月	**江戸三十六見附を巡る会**	江戸城の三十六見附を近くの他の史跡も見ながら巡る。完歩して平成18年1月に解散	（小笠原淑夫）	平成16年 17年	41 79
平成18年 6月	**江戸東京を巡る会** （「江戸三十六見附を巡る会」の解散を受けて新たに発足）	江戸の先人の足跡を2～3カ月に1回訪ねて学ぶ。名園鑑賞・歳時記シリーズもほぼ終わり、平成29年11月解散	（磯邉晃）	平成18年 19年 20年 21年 22年 23年 24年 25年 26年 27年 28年 29年	41 67 103 144 102 156 123 244 236 177 207 75

設立年月	サークル名	活　動　内　容	（発起人） 現世話人	年間参加者数	
				年度	延人数
平成16年11月	**落語と講談を楽しむ会**	落語・講談のDVD鑑賞、寄席鑑賞、落語・講談ゆかりの地散策などを行う	（鈴木秀明） 中村文男	平成16年	33
				17年	113
				18年	139
				19年	186
				20年	260
				21年	216
				22年	226
				23年	249
				24年	336
				25年	216
				26年	185
				27年	205
				28年	196
				29年	185
				30年	208
				令和元年	177
				2年	26
平成17年 9月	**古文書で『八丈実記』を読む会**	流人の近藤富蔵の著書『八丈実記』を解読。設立から10年余をかけ、平成28年1月に終了	（岡橋園子）	平成17年	82
				18年	208
				19年	175
				20年	170
				21年	180
				22年	178
				23年	148
				24年	141
				25年	129
				26年	166
				27年	135
平成28年 2月	**「米屋田中家明治日記」を読む古文書の会**	『八丈実記』終了により、サークル名を「米屋田中家文書」を読む古文書の会に変更、さらに内容を明確にするため、平成29年6月、「米屋田中家明治日記」を読む古文書の会と変えた	（大野晴美） 大野晴美	平成27年	39
				28年	210
				29年	182
				30年	181
				令和元年	145
				2年	0
平成19年 6月	**江戸御府内八十八カ所をめぐる会**	四国の江戸版コピーの八十八カ所札所をご朱印をいただきながらめぐる。平成21年7月満願成就により解散	（松原良）	平成19年	314
				20年	447
				21年	206
平成21年10月	**神田川を歩き楽しむ会**	神田川の源流から隅田川へ注ぐまでを、近隣の寺社旧跡などに寄りながら川沿いに散策する。柳橋まで完歩して解散	（松原良）	平成21年	489
				22年	767
				23年	832
				24年	701

設立年月	サークル名	活　動　内　容	（発起人） 現世話人	年間参加者数 年度	 延人数
平成22年 5月	**『江戸名所図会』輪読会**	毎月1回、『江戸名所図会』を輪読している	（下永博道） 下永博道	平成22年 23年 24年 25年 26年 27年 28年 29年 30年 令和元年 2年	177 226 223 206 218 197 163 169 206 198 48
平成25年 2月	**「落語で江戸散歩」をなぞる会**	会報に連載された「落語で江戸散歩」をなぞり歩く。完了し、平成28年6月解散	（松原良）	平成24年 25年 26年 27年 28年	73 726 639 728 214
平成25年 2月	**日本の大道芸伝承会**	南京玉すだれ等、古来から伝わる日本大道芸の伝承活動	（光田憲雄） 光田憲雄	平成25年 26年 27年 28年 29年 30年 令和元年 2年	60 72 47 65 36 37 42 37
平成25年11月	**江戸を語る会**	前半の所感交換と後半の懇親会で江戸の魅力を満喫する	（須賀靖） 須賀靖	平成25年 26年 27年 28年 29年 30年 令和元年 2年	18 68 65 65 49 44 47 17
平成27年 4月	**かっぽれの会**	健康維持としゃれ芸の修得を目指し、江戸東京の踊り「かっぽれ」を稽古する。平成30年2月解散	（鈴木正文）	平成27年 28年 29年	33 26 0
平成28年8月	**太田道灌ゆかりの地を訪ねる会**	関東に100（後に200に変更）以上ある道灌ゆかりの地を実際に訪ねる	（松原良） 松原良	平成28年 29年 30年 令和元年 2年	571 719 506 377 0
平成28年10月	**文士達を巡る会**	明治～昭和の近代文学期に活躍の文士達ゆかりの地を訪ねる。平成29年9月「文士散歩」に名称変更。当初の目的を終えて令和元年9月解散	（内山文伸）	平成28年 29年 30年 令和元年	39 74 83 35

各サークルの記録は以上のとおりです。このようなサークルは今後もさらに増えることが望まれますが、サークル立ち上げに関するガイドラインを次に掲げておきます。このガイドラインは普段あまり見る機会もないかと思いますが、今活動している各サークルはこのようなルールに則って設立・運営されているわけです。どうか「われも！」と思われる方は積極的に手をあげて新しいサークルを立ち上げてください。

「えど友サークル」設立・運営ガイドライン

1.「えど友サークル」（以下「サークル」という）とは、江戸東京に関連する特定のテーマに関心を寄せる同好の会員による少人数の組織（設立時3人以上150人以下、活動開始後の増減は不問）をいい、友の会として会員同士で楽しむ場を提供するものです。なお、特定の政治、宗教、信条、事業、流派等の宣伝に類するものおよび師弟関係を生ずるものは不可とします。

2. すべての会員は所定の手続きを経ることによって、この「サークル」を設立し、またはこれに参加することができます。

3.「サークル」に関する友の会としての受付窓口は事務局、担当は総務部会となります。

4.「サークル」設立の手続きは次のようになります。なお、既存サークルの名称、世話人・連絡先などの変更および解散の場合も新規設立と同様に以下の手続を踏むものとします。

① 「サークル」の設立、変更または解散を希望する会員は、事務局に所定用紙を請求し、「えど友サークル設立・変更・解散届」を作成

＊設立の場合はこの届のタイトルの「設立」を丸で囲み、サークルの名称、趣旨・活動内容、世話人の氏名・連絡先等と『えど友』へのメンバー募集原稿を記入。変更の場合はタイトルの「変更」を丸で囲み、変わる箇所のみ記入、変わらない項目は「従来通り」、メンバー募集原稿欄は「不要」と記入。解散の場合はタイトルの「解散」を丸で囲み、理由などを記入。

② 届を事務局経由で総務部会に提出

③ 総務部会で内容を確認、役員会に上程

④ 役員会承認（設立の場合は趣旨のチェック、重複のチェック、全体活動との調整など、変更・解散の場合は内容確認）

＊届に承認年月日を記入、広報部会受付後提出者に返送。以下は設立の場合、解散の場合は⑤の会報掲載のみ

⑤ 会報『えど友』に掲載・メンバー募集

⑥ 参加者の応募を事務局で受付、締切後「参加希望メンバーのリスト」を世話人に送付。ただし、希望者が2人に満たないときは事務局はその旨総務部会に報告し、総務部会はこれを役員会に報告の上、設立不可を世話人に通知。

⑦ 「サークル」の活動開始

5.「サークル」を運営するのに必要なメンバーへの連絡等の一切は、メンバー全員の協力を得て世話人が全責任をもって行うものとします。これに要する費用はメンバーの負担とし、会からの補助は行いません。したがって、必要に応じて通信費等の徴収は各サークルの任意ですが、1項の主旨から月謝、授業料、指導料に類する費用の徴収はできません。

6.「サークル」運営にあたっては、それぞれ次の規定によるものとします。

① 江戸博内の会議室等を会場としての活動

イ、できるだけ早く、できれば年間予定または定例希望日時を明記して会場の手配を事務局に依頼する。予定を立てる際、友の会の行事や他のサークルの予定と重複しないよう配慮する。

ロ、会場手配の結果は事務局より連絡するので、指示された会場を使用して活動する。サークルメンバーの会場への入退室に関して友の会から特段の指示があった場合はそれに従うものとする。なお、会議室等の利用料は友の会負担とする。

② 館外での見学会等の活動

イ、できるだけ早く、できれば年間予定または当面の予定を遅くとも実施の1カ月前までに事務局に届ける。予定を立てる際、友の会の行事や他のサークルの予定と重複しないよう配慮する。

ロ、実施日ごとに友の会見学会と同じ行事保険をかけるものとし、それに要する手続きは各サークルで行う。なお、行事保険料は友の会負担とする。

③ 資料等のコピー

資料その他のコピーは実費（白黒1枚5円、カラー1枚15円）を支払うことにより、友の会の用紙、コピー機を用いて行うことができる。無論友の会のコピー機を使わなくても可。

7.「サークル」の活動状況は、その都度各「サークル」から「えど友サークル活動報告」による簡単なレポートを事務局に提出し、会報『えど友』に概況を掲載し会員に公開するものとします。

8. このガイドラインにない事項への対応、新たなルール化などについては総務部会が調整し、必要に応じ役員会の承認を得るものとします。

㈱ このガイドラインは平成30年12月13日より改訂施行する。

11 会員からの意見・要望とその対応

友の会の運営に対して、会員の皆さんからいろいろなご意見やご要望が寄せられます。役員会ではこれを審議して回答の要否を判断、回答を要すると判断したものは回答内容の概略と回答文案作成担当を決め、次号の会報『えど友』に掲載することにしています。しかし、繰り返し同じ内容のご意見が寄せられたり、回答当時と事情が変わってきたケースなどへの対応は十分とはいえないかもしれません。そこで15年を総覧して、改めてご意見・ご要望を整理し、回答内容も再度現時点で見直し、また回答不要としていたものでも現時点では回答した方がいいと思われるものも加え、列挙してみました。これも友の会の歴史の一つといえるのではないでしょうか。特に比較的新しく会員になられた方やこれから入会される会員の方にはぜひお読みいただきたいところです。（以下の「お答え」は、『えど友』掲載分は掲載時点でのお答え、掲載なし分は現時点でのお答えです。）

【館内催事の開催日や時間】

ご意見・ご要望	お答え
平成18年3月『えど友』30号掲載	
1　友の会と「えどはくカルチャー」の古文書講座の日程が重なって残念。何とか調整して欲しい。	1　友の会としても江戸博の行事と日程的に重ならないよう常々努力していますが、双方の行事のすり合わせは不可能なため、完全に重複を避けることが難しいことをご理解願います。 **現時点での補足**：その後もセミナーと重複しないようになどのご要望が出ていますが、同事情ですので重ねてご理解をお願いします。
2　日曜日の催事を増やして欲しい。	2　平成17年度は、古文書講座は一講座、また、友の会セミナーは4回、それぞれ土曜日開催として計画しました。できるだけ特定の曜日にかたよらないように配慮したいと思いますが、土曜・日曜は会場となる江戸博の会議室の確保が大変難しいこともご理解ください。
平成18年9月『えど友』33号掲載	
3　会員数も1,000人を超したとのことで、会員の要望・要求も多様化してくると思う。開催日も平日と休日、昼間と夜間などきめ細かな対応が必要ではないか。	3　現在、平成18年度の各催事が軌道に乗りつつある段階です。その参加状況や参加者のご意向などもお聞きした上で、総合的に検討したいと思います。その結果についてはいずれ『えど友』誌上でお知らせします。 **現時点での補足**：現在はセミナーをなるべく土曜、見学会を日曜に開催するなどで、多くの会員の要望に応えていると考えています。
平成19年1月『えど友』35号掲載	
4　特別観覧会は平日でいつもあきらめていましたが、今回（10月26日）平日5時半からでぎりぎり間に合いました。今後も開館時間の延長（金曜日）をご検討ください。	4　観覧会などの開催日時・場所は江戸博を含む特別展の主催者間で事前調整の上決定される仕組みになっております。したがって、今後とも今回のような方式をお約束することは困難です。なお、お寄せいただいたご意見は江戸博にもお伝えしました。 **現時点での補足**：現在「友の会特別観覧会」は原則金曜日の夕方（5時から「見どころ解説」、5時半から展示見学）の開催となっています。
平成19年3月『えど友』36号掲載	
5　特別観覧会を昼の時間帯にやっていただけると助かります。	5　特別展の一般公開期間中、閉館して一般来館者が居なくなった夕刻から開催されるのが「特別観覧会」です。一方、特別展の一般公開に先立ち、一般来館者とは切り離して実施されるのが「特別内覧会」なので、通常、休館日（特別展公開前日）の昼間か夕刻に行われます。 いずれも江戸博を含む主催者により決定され、そのいずれかに友の会の参加が許されています。さて、ご要望のように昼間に「特別観覧会」を行うには、友の会単独で館の休館日に行うしかなく、そうなると広い館の保安・防災管理のみならず、冷暖房費を含めた諸経費の問題が生じ、とても友の会では対応しかねることがご理解いただけると思います。

ご意見・ご要望	お答え
平成20年3月『えど友』42号掲載	
6　今月の（会報の）到着から61回のセミナーの締切りが早すぎます。	**6**　友の会セミナーなど催事のご案内は２ヵ月に１回発行（奇数月の１日）の会報『えど友』誌上で行っております。また申込締切日は開催日のほぼ10日前としていますので、どうしても奇数月開催の催事についてはご指摘のようなケースが発生しがちです。会報の発送日は原則偶数月の最終水曜日ですが、これらを勘案して会報到着から申込締切り日まで少なくとも10日から２週間を確保するよう努めています。以上のような事情をご理解いただきたいと思います。 なお、昨年度14回開催されたセミナーに毎回出席の甲田勝義さんの記事が『えど友』39号に出ていますが、スケジュールを確保する方法などご参考になさってはいかがでしょうか。また、『えど友web版』（ホームページ）でも先の予定を随時更新しておりますのでご覧ください。 **現時点での補足**：会報の発送日が原則偶数月の最終水曜日から火曜日に変更になっていますが、事情は変わっていません。
『えど友』に掲載なし	
7-1　セミナーと特別観覧会を同じ日にしてほしい。 **7-2**　平日勤務者が参加し難い日時が多い。また、土曜日が多すぎます。 **7-3**　セミナーの開始時間は14時でなく、13時か、13時30分からにできないでしょうか。 **7-4**　特別観覧会の開始時間を17時でなく、17時30分か18時からお願いしたい。	**7**　当然のことながら、個人的な事情からいろいろな要望が出ていますが、すべての会員を満足させることは不可能です。当面、現在の日時で推移を見守っていく所存です。

【講座内容、使用資料など】

平成18年3月『えど友』30号掲載	
8　友の会セミナーの講師用のマイクをコードレスのピン型マイクにならないでしょうか。	**8**　設備上はコードレスの「ピン型マイク」・「ハンドマイク」とも使用できることになっています。しかし、講師によっては「ピン型マイク」の装着を希望されない場合もありますので、臨機応変に対応させていただきますのでご了承ください。
9　葛西聖司氏、山本博文氏、氏家幹人氏などを友の会セミナーの講師に希望する。	**9**　希望理由などをお知らせいただければ、事業部会で検討の際総合的に判断させていただきます。
平成18年11月『えど友』34号掲載	
10-1　友の会セミナーで、都内の「民俗行事」をテーマに取上げてほしい。 **10-2**　友の会セミナーで、江戸時代の下水状況のレクチャー希望。	**10**　現在、平成18年度の各セミナーは計画どおり進行中です。その際、参加者のみなさんにアンケートのご協力をお願いし、希望するテーマのジャンル、具体的テーマなどをお聞きしています。その結果を集約し来年度の企画に反映したいと考えておりますので、今回お寄せいただいたご意見もこの集約対象に加えさせていただき、今年度の参加状況や講師依頼の可能性なども勘案し、総合的に検討していきたいと思います。 **現時点での補足**：その後もセミナーの内容について多々ご要望が出ており『えど友』には載せていませんが、企画時の参考にさせていただいております。

ご意見・ご要望	お答え
平成18年9月『えど友』33号掲載	
11　古文書講座も回数をかさね、皆さん相当読めると思われますので、 イ.くずし字の板書き解説は極力省き、本文解説に力点をおいてください。 ロ.分量は自宅学習を楽しめるよう多くしてください。	11　古文書講座は見直しの時期に来ていますので、９月に受講者からアンケートをとらせていただき、検討を行う際の参考にさせていただきます。最終的には講師とも話し合い、来年度から新たな形での実施を予定しています。
平成19年1月『えど友』35号掲載	
12　古文書講座は入門・初級では物足りないので、中級レベルで解読だけでなくその歴史的意味の解説を十分加えて教えていただきたい。	12　ごもっともなご意見です。古文書講座についてはこうしたご意見をはじめ、参加のみなさんのアンケート結果などを踏まえて、講師の先生とも話合いを行いました。それをもとに来年度の計画を検討しましたが、詳細については次号でご案内する予定です。 **現時点での補足**：平成19年度から中級編を開講し、現在にいたっています。
平成19年5月『えど友』37号掲載	
13　友の会セミナーなどで特に興味のある内容の場合、録音はOKですか？	13　現在友の会としては、会としての記録を残すとともに会報に要約を掲載するため講師の了解を得て録音をとっておりますが、一般聴講者が録音をとることはお断わりしています。
平成19年7月『えど友』38号掲載	
14　古文書講座などで使う学習室の温度調整はもう少し改善できないのでしょうか。	14　江戸博の空調管理は中央管理方式となっており、個別の施設・部屋ごとの微調整はできません。学習室・会議室などの温度が低過ぎたりする場合は、適宜１枚羽織るなど個人で対応していただきたいと思います。冬期には逆に暑過ぎたりする場合もありますが、いずれも個人で対応されるようお願いします。
『えど友』に掲載なし	
15　古文書講座で使う資料を事前に知りたいのですが。	15　どの教室でも、初回に３回分の史料（原文）を一括配布しています。それ以前に郵送などで参加者に配布することは物理的にできませんので、ご了承ください。

【見学会】

平成18年3月『えど友』30号掲載	
16　天候不順の場合、見学会を実行するかどうかの直前情報がほしい。	16　ごもっともなご要望です。本年４月から悪天候などによって見学会を中止する場合には、前日にその旨を参加者に電話連絡することにし、参加証（「案内ハガキ」）にその旨を明示します。なお､当日の朝の問合せについては､参加証（「案内ハガキ」）に記載する「友の会の携帯電話」あてにお尋ねください。
17　当日集合時間に遅れてしまった場合どうすればよいのか（連絡先その他)。	17　本年４月からは、見学会をご案内する世話人が「友の会の携帯電話」を携行することにいたします。したがって、定時出発が原則ですが、遅刻が予想される場合には同携帯電話にご連絡ください。携帯電話の番号は、参加証（「案内ハガキ」）に明記します。

ご意見・ご要望	お答え
平成19年1月『えど友』35号掲載	
18　見学会は第2土曜日が多いようです。できればその傾向を固定しないで、第1土曜日、第3土曜日にするとか開催日の検討をお願いします。	**18**　今年の見学会の実施日は第2土曜日が3回、第4土曜日、第5土曜日、第4日曜日が各1回となっております。確かに第2土曜日が多かったのですが、見学会実施日は友の会セミナー、古文書講座、えどはくカルチャーなどの日程との調整の上決定しており、見学会を意図的に第2土曜日に設定しているわけではありません。この点をご理解いただきたいと思います。しかしながら、会員のみなさんに平等に参加の機会をつくることも必要と考えますので、今後はアンケートなどみなさんのご意見を参考に実施日を考慮したいと思っています。 **現時点での補足**：見学会は道路の交通事情などもあり、現在はほぼ日曜に開催しています。
平成19年9月『えど友』39号掲載	
19　平日に見学会を実施することはできないでしょうか。	**19**　友の会も現在会員数が1,300名以上となり、セミナー、見学会など各行事とも、100名を超える参加者になっております。見学会開催時の歩行道路の交通事情、ガイド人数不足などから平日実施は、困難と考えます。実施方法の検討は、続けていく所存ですので今後ともご協力をお願いします。 **現時点での補足**：現在ガイド人数不足はほぼ解消しましたが、交通事情は変わらず、自転車事故の多発などの問題もクローズアップされ事情はむしろ悪化していますので、やはり平日実施は難しいと考えています。
『えど友』に掲載なし	
20　見学の場所について多々要望あり。	**20**　セミナー同様見学先についてのご要望は『えど友』には載せていませんが、企画時の参考にさせていただいております。
21　年間をとおし毎月実施して欲しい。	**21**　会員の年齢は次第に高齢化しており、健康管理上、真夏や真冬の期間は除外して実施していることをご理解ください。
22　同じ見学会を平日と休日の2回実施してください。	**22**　最近、参加者数は200名近くになり、ガイド、世話役など20名以上の人たちが無償奉仕で参加費まで払って頑張っており、これが2回となると負担が大変大きなものになることもありますが、それよりも交通量や人通りの多い市街地を平日に、ぞろぞろと大勢が通行することは第三者に迷惑を掛けたり、危険を伴うことも考えられ、休日見学を原則としています。
23　下調べのため、事前に見学会の順序を知りたいのですが…。	**23**　主な見学先・コースは『えど友』の催事案内に記載していますので、それを活用していただくようお願いします。
24　ガイドの説明が騒音などにより聞き難いので、マイクなどを使用してください。	**24**　最近は参加者の増加に伴い、ガイド、世話人の人数も増やし、1組当り10名前後の参加者数になっています。例えば20組のガイドがすべてハンドマイクを使用することになりますと、その騒音は大きなものになり、周りにいる第三者からクレームなどが寄せられる恐れがあります。たかだか10名ほどですので、そう離れなければ、ガイドの声は聞き取れるはずです。
25　終了時間を明記して欲しい。	**25**　例えば20組が順番に出発しますと、終了時間はまちまちとなります。『えど友』の催事案内に所要時間を記載していますので、それにより終了時間を推測してください。
26　都合が悪く、欠席した場合は、その日の資料を有料配布できませんか？	**26**　見学会を申し込まれた方で、当日たまたま欠席した人を対象に有料配布を検討いたします。 **現時点での補足**：現在は、見学会を申し込まれた方で当日やむを得ない事情で欠席され、ご本人から資料希望の申し出があり、事務局まで取りにくる場合に限り有償でお渡ししています。

【会報『えど友』、ホームページ】

ご意見・ご要望	お答え
平成18年9月『えど友』33号掲載	
27　友の会の「ホームページ」から、各催事案内に入りづらいと思います。トップページに催事案内の「アイコン」を設けたほうがよいと思います。	**27**　確かにご指摘のとおりですので、早速「催事案内のアイコン」をトップページに設けました。ご利用ください。
平成18年11月『えど友』34号掲載	
28　『えど友』プラザ・特集「私の昭和・東京」について…投稿者の氏名だけではどこの人かわかりません。せめて次号からは住所は記入してください。そうすればどこの人が書いたか、印象が深くなります。	**28**　前号の『えど友』№33の６ページ「友の会からのお知らせ」でご案内しましたように、近頃は、個人情報の取り扱いについてはいろいろと配慮しなければならなくなりました。投稿者のなかには住所の掲載を望まれない方もあると思料されます。編集部としては、たとえ市・区・町レベルまででであっても住所の掲載は今後とも差し控えたいと考えていますのでご了承ください。
平成19年1月『えど友』35号掲載	
29-1　友の会会報の江戸博界隈の食事処の紹介、とても重宝しています。江戸博に行く時には、できるだけそこに行くようにしています。今後も続けて下さい。	**29**　お役に立てて大変嬉しく思います。今後ですが、「江戸博界隈」のシリーズは第12回で終了し、今号から新シリーズ「江戸博から大川を渡って…」が始まります。このシリーズでも形は変わりますが、食事処の紹介を行いますので、引き続きご愛読願います。 **現時点での補足**：現在の「落語で江戸散歩」では食事処の紹介はあまりありませんが、今後の新企画や誌面の見直しに際してはこの点も考慮し、できるだけ皆さんのご要望にお応えしたいと思います。ただ最近は食事処紹介の希望はあまりないようなので、これに関して特別の企画は今のところ考えていません。なお、館内のラックにおかれている『両国にぎわいＭＡＰ』（両国協力会が毎年最新版を発行）には多くの食事処が出ていますのでご参考になさってください。
『えど友』に掲載なし **29-2**　江戸博近辺の食事所の紹介をしてください。	
『えど友』に掲載なし	
30-1　「私の常設展おすすめ」コーナーを設けたらどうですか。 **30-2**　会員同士の触れ合いコーナー（この指とまれコーナー）をつくってください。	**30**　一部は“誌面見直し”により実施しますが、他の要望につきましても、随時検討し、対応していく予定です。誌面にバラエティを持たせる観点からも、いろいろなご意見をお寄せください。

【その他】

平成18年3月『えど友』30号掲載	
31　会員番号があるのだから、申込みハガキに毎回「住所・電話番号」の記載は省略できないか。	**31**　同様のご意見がありましたので、現在は「ご氏名・会員番号」のみで、その他についての記載は省略しています。

ご意見・ご要望	お答え
32-1　会員証に年齢を入れて欲しい。 **32-2**　65歳以上の会員証の色を変えて欲しい。	**32**　いずれもご要望の主旨は、友の会会員であっても65歳未満と65歳以上とでは催事の入館料が異なるため、「友の会会員証」のほかに、65歳以上を証明する「健康保険証」や「運転免許証」などを同時に窓口に提示しなければならないわずらわしさを解消できないかということだと思います。確かに「友の会会員証」に65歳以上と印字するか、あるいは色やデザイン面での配慮が一つの案として考えられます。しかし、新規加入時や更新時には64歳であっても、次回の更新時までには65歳になられるわけですから、上記の方法も完全な対応策とはなりえません。 　他の方法としては、「友の会会員証」に生年月日を印字することも考えられますが、個人情報の面では年齢以上に忌避される方もおられるでしょうし、友の会事務局の事務量の問題、江戸東京博物館の混み合う窓口で生年月日から年齢計算をすることは大変に難しい面があり、現行方法を採らざるを得ないことをご理解願います。
平成18年11月『えど友』34号掲載	
33-1　催事の申込みはメールでできないか。 **『えど友』に掲載なし** **33-2**　メールでの申込みをお願いします。	**33**　現在、友の会では会専用の回線をもたず、特定の広報部会員の電話回線を使用させていただいてホームページを運用・管理しているのが現状です（ホームページのランニングコストは友の会負担）。また、友の会事務局と称してはいるものの、実情はアルバイトが週に2日、せいぜい12時間程度しか友の会事務室に詰めていません。こうした諸々の事情からメールでの申込みを受理するには至っていませんのでご了承ください。なお、専用回線を有する江戸博においても、情報漏洩（ろうえい）などセキュリティーの観点から、各種の事業の申込みは「ハガキ」に限定しています。 **現時点での補足**：メールでの催事申込み受付ができないもう一つの大きな理由は、全員がメールで申込みできるわけではなく、はがきとメールの二本立てとなり、事務量が増加するためです。工夫により事務量の増加を抑えることはできるかもしれませんが、今のところ現在の申込み方法が定着していると思われ、変更を検討する予定はありません。
平成20年9月『えど友』45号掲載	
34　友の会には会員の発表の場（講演・論文）がありますか。	**34**　残念ながら友の会には、研究成果を発表する講演会もなく、論文を掲載する『論文集』の類の発行も行っていません。ただ、会報『えど友』の誌面には会員の投稿欄として「えど友プラザ」を設けておりますので、論文のダイジェスト版を作成いただき、投稿されることは可能です。なお、テーマが限定されていますが、「藩史研究会」という「えど友サークル」があり、ここでは持ち回りで研究発表を行っています。一種の発表の場です。このようなサークルに参加したり、新しく別のテーマでサークルを立ち上げることも可能です。 **現時点での補足**：このようなご意見があったことも踏まえ、平成21年度から毎年「会員研究発表会」を開催しています（24頁参照）。
平成20年11月『えど友』46号掲載	
35　「会員証」に生年月日または年齢を入れてください。	**35**　ご要望の主旨は、友の会会員であっても65歳以上であることを証明するには江戸博の窓口で「会員証」のほかに健康保険証や運転免許証を提示させられるわずらわしさを解消できないかということだと思います。しかし現在江戸博の窓口では健康保険証等の提示を求められることはなく、口頭による自己申告で65歳以上料金が適用されますので、生年月日等を印刷する必要がありません。かえって個人情報保護の面から生年月日等の印字を嫌う方もおられるのではないかと思います。以上の事情をご理解願います。

ご意見・ご要望	お答え
平成23年7月『えど友』62号掲載	
36　地震の影響で江戸博が2カ月近く休館していて利用できなかったので、友の会会費の納付期限を2カ月間延長してもらえないでしょうか。	**36**　確かに会員の特典の中に江戸博の利用がありますが、それがすべてではありませんし、会費は年会費であり月割りではありません。江戸博休館中も友の会としての事業（例えば催事の企画検討・交渉や会報の編集など）は年間予算を念頭に行われており、表面に出るものだけで月割りにはできないからです。どうかご理解ください。
『えど友』に掲載なし	
37　会員が増えたために起きる定員オーバー対策は？	**37**　21年度までは会員数が年々増えていましたが、近年は1,600人前後を推移しています。確かに過去、定員オーバーとなって抽選をしたケースはありますが、最近は一切ありません。これは、古文書講座を除き、原則として最大400人収容できるホールを使用しているためです。古文書講座は午前と午後開催していますし、また見学会でも定員オーバーの場合はガイド、世話人を増員して対応を図っています。
38　友の会のスタッフは大変ご苦労されているので、世話料を支払いたいのですが。	**38**　「友の会規約」第3条第2項で「会員が友の会事業のために行う活動は無償とする」と規定されていますので、すべての催事に無償従事しています。因みに、スタッフが催事にガイド、世話人として参加する場合でも会員と同額の参加費を支払っています。 **現時点での補足**：その後平成22年5月28日の規約改正で「会員が友の会事業のため行う活動は原則として無償とする」と改められ、現在は見学会下見の交通費は会から支給され、ガイドの参加費は無料となっています。
39　「えどはくカルチャー」の講座に友の会会員を優先割当して欲しい。	**39**　江戸東京博物館は公的機関であり、特定の個人、団体に優先割当をすることはできません。ただし、友の会会員に対し各催事の割引特典があります。
40　館内ミュージアムショップに会員割引の表示をしてもらいたい。	**40**　最近では会報『えど友』65号の12ページでもご案内しているように従来から店頭での表示や告知はありませんので、自分の方から会員証を提示して割引を受けるようにしてください。

※なお以上のほか、特定の講師等に対する批判などをいただいたこともありましたが、以後の企画時の参考にはするものの、ご意見や回答を公表することは差し控えました。また、多くのお礼や感謝のお言葉もいただいており、『えど友』誌上には載せていませんが、企画担当者はじめ関係者には大きな励みとなっています。

※なお、ここ5年ほどは『えど友』に掲載するような「ご意見・ご要望」はほとんどありませんが、ご意見をお寄せいただいた場合はご本人にはできるだけ丁寧にご説明するよう努めております。

12 非常時における友の会の対応

友の会の歴史の中で、通常の活動が行えない事態に何度か直面しました。そのとき友の会はどう対応したのかを、今後の非常時対応の参考にするため、概略をまとめました。

（1） 東日本大震災（平成23年3月11日～）

① 江戸博からの特別展「五百羅漢　増上寺秘蔵の仏画」および観覧会の延期連絡に基づき、観覧会中止はがきを発送した。
② ３月の古文書講座を中止とし、受講者に電話連絡を行った。
③ ３～４月の催事を全て中止とし、中止はがきを発送した。
④ 各サークルへ行事の中止を要請した。
⑤ ４月末までの江戸博休館中、事務局開設日に役員が交代で出勤した。
⑥ 定期総会は予定通り開催した。
⑦ 会報『えど友』は通常通り発行した。
⑧ 震災に対し、友の会としての義援金、および総会での募金を合わせて日本赤十字社に寄付を行った。

（2） ホール等改修工事に伴う全館休館（平成29年10月1日～ 平成30年3月31日）および一部施設貸出休止（平成30年4月1日～ 令和元年7月31日）

① 会員証期間を６カ月間延長とした。
② 平成30年度・令和元年度の定期総会はホールが使用できないため、外部施設（亀戸文化センター カメリアホール）で開催した。
③ 休館中のセミナーは中止した。
④ 古文書講座は全講座を外部施設［リロの会議室（飯田橋）、すみだ産業会館（錦糸町）］で実施した。
⑤ 江戸博内施設を利用していたサークルに対して、外部施設利用料金の補助を行った。
⑥ 地下施設の工事に伴い、従来の事務局が使用できなくなったため、館内に仮事務局を設置した。
⑦ 会報『えど友』は通常通り発行した。

（3） 新型コロナウイルス感染症の流行（令和2年～令和3年）

＜令和2年＞
① 江戸博の全面休館（2月29日～６月１日）に伴い、会員証期間を３カ月間延長とした。
② 定期総会は開催せず、書面議決によって議案を可決した。
③ ３～７月の催事は全て中止とした。
④ 古文書講座の３月（令和元年度第３期）、５～７月（令和２年度第１期）は中止とした。
⑤ 活動休止中の対応状況について、会員への文書連絡・ホームページへの情報掲載を行った。
⑥ 活動再開後は、江戸博の「新型コロナウイルス感染防止ガイドライン」に沿って対策を実施し、催事参加者への防止協力を呼びかけた。
⑦ 会報『えど友』第116号は、７月発行予定を９月に延期、通常の12頁建てを８頁建てで発行した。

＜令和3年＞
① ２度目の緊急事態宣言中（1月７日～３月21日）は江戸博は開館したが、友の会は独自に対応を行った。
② １月～３月中旬までの催事は全て中止とした。
③ 古文書講座の1、2月（令和２年度第３期）は中止とし、3、4月の２回に変更した。
④ 活動休止中の対応状況について、ホームページへの情報掲載を行った。

13 メディアによる紹介記事

（1） 読売新聞

平成27年４月６日（月）の都内版に町方書上翻刻プロジェクトが紹介されました。

（第3種郵便物認可）

江戸の国勢調査 今に

ボランティアら全文解読

■ 原本146冊「町方書上」

5年がかり 全8巻

「町方書上」の復刻に取り組んだ友の会メンバー（墨田区の江戸東京博物館で）

江戸時代の町の由来や様子が記され、当時の「国勢調査」とも言える文書「町方書上」の全文を収録した全8巻の冊子が完成した。江戸東京博物館（墨田区）の市民ボランティアらが、専門家でも解読が難しい筆書きの崩し字を現代の字体に書き改め、5年がかりでまとめた。大事業を終えたメンバーは「江戸の町の研究に役立ててもらえれば」と期待している。

町方書上は文政8～11年（1825～28年）に、江戸幕府が町名主に対し、地域の様子を書面で報告させたもの。町の由来や江戸城からの距離、屋敷の数、町内に立てられた高札（掲示板）の文言などが記録され、当時の江戸の生活がわかる貴重な史料だ。

記録された町は、今の墨田、江東、台東、千代田、文京、豊島、新宿、渋谷、目黒、品川、港の11区にわたり、原本は全146冊にも上る。当時の筆書きの文字を現代の活字に改めて復刻した本は、これまでも各区の図書館などで発行されてきたが、地元の記述に限定され、全地域を網羅したのは初めてという。

復刻にあたったのは「江戸東京博物館友の会」のメンバーら。古文書に関心を持つ約20人が、学芸員の指導を受けながら2009年からボランティアで行ってきた。

一字一句を「くずし字辞典」と突き合わせる地道な作業で、文脈で推定できない人や地名などの固有名詞も多く、相談し合いながら難解な文字の解読に取り組んだ。

興味深い事実も明らかになった。幕末に活躍した勝海舟と父、小吉は現在の墨田区に親子で住んだことでも知られるが、小吉が幕府から割り当てられた屋敷の場所は現在の新宿区（四谷御簞笥町）と記されていた。当時、下級武士は屋敷や土地を貸して別の場所に住むこともあったといい、勝親子もその可能性があるという。

メンバーの多くは仕事を退職してから古文書に興味を持つシニア世代。古文書を読んで10年以上のベテランから初心者まで経験はまちまちだが、読み込みに大学、図書館、博物館などの専門機関での活用を想定しており、同館には海外の研究者からも、「授業や研究に使いたい」との申し出がある。問い合わせは、同館友の会事務局（03・3622・9911）。

指導にあたった同館の青川寛明学芸員は「専門家だけでは難しい膨大な作業。歴史を趣味とするシニア世代が、楽しみながら貴重な史料の復刻に大きな役割を果たしたことは歴史研究の良い見本になる」と話している。

一般販売の予定はなく、建築や土木の専門知識も必要で、こうした分野に詳しいメンバーもいたことが解読には役立った。

板橋区の大野晴美さん（79）は「一人ひとりが持ち味を発揮して、江戸の町の姿を少しずつ読み解いていく作業が楽しかった」と振り返る。

各巻にはそれぞれ索引をつけ、地名や人物名などから記述をたどれるようにし、研究史料として使いやすいよう工夫されている。

（2） 日本経済新聞　夕刊

平成27年11月30日～12月４日の記事「体・験・学　古文書の海に乗り出す」に友の会の古文書講座が取り上げられました。

9 くらし

【第三種郵便物認可】

体・験・学

古文書の海に乗り出す ②

入門編、熱気に酔った初講座

仮名文字通じ近世に物思う

江戸東京博物館（東京・墨田）で開かれる古文書講座「入門編」の教室。11月初旬、おじゃました。主催は同博物館友の会。今年度、第2期の3回目だ。2時間の講義は、前回出された宿題（ソ）の解説から始まった。

題材は公家の山科言総が詠んだ和歌の自筆短冊で、極札（きわめふだ）という古筆の鑑定結果を記した札が付いている。能書家や有名人の筆跡は尊ばれ、好んで鑑賞されてきたが、江戸時代には書跡鑑定の専門家である古筆家が誕生。古筆見と呼ばれる人たちが鑑定して極札や折紙（おりがみ）が付けられるようになった。

テキストはもちろんゴビーだが、現物の短冊と極札が教室で回覧された。持ち主である講師の田中潤さんは「極札が付いているのを極め付きなど」というが、鑑定結果としては折紙付きの方が信頼度は高いようだ。もっとも、極札が必ずしも正確とは限らない」と軽妙な語り口で笑いを誘う。

一般に現代人が短冊や色紙などに書かれた和歌や俳句の文字を読むのに苦労するのは、ひらがなが1種類と思い込んでいることが関係している。古筆見と呼ばれる人たちが鑑定して極札や折紙（おりがみ）が付けられるようになった。

仮名と呼ぶようになった。それまでは一つの音を表すのに数種類の仮名文字が使われていた。

つまり、かの音を示すひらがなは「か」だけなのに、時代によって変遷はあるが、「可」「加」「賀」「歌」など発音の元になる漢字（字母という）を崩した複数の仮名文字が自在に使われてきた。こうした実態が忘れられた結果、読むのが困難になったということなんだろう。

講義は、江戸時代後期の江戸周辺の年中行事を詳細に記した『東都歳事記』を読み進めていく。11月に新酒が上方の伊丹、西宮、池田などから品川沖に着くと、各問屋が大船を出し、先を競って沖で荷を積み込んで運送する、と記す。まるで現代のボージョレ・ヌーボーだ。

平日午後2時からの教室は80人余りの出席者で盛況。登録者の出席率は9割を超える。午前の部は100人を超えたという。60代後半から70代が大半で、おおむね男女が2対1の割合だ。11月だというのに室内は熱気があふれる。入門編の幹事を務める藤村一夫さんは「居眠りしている人はいないでしょ」と冗談めかすが、生き生きした雰囲気に驚く。

講師の田中さんは「季節感を感じたり、訪れた経験がある場所など、できるだけ受講生の方々と接点がある内容を話すことで関心を深めてもらえれば」と「人生の先輩」への気遣いを示す。単に崩し字を学んで読むというより、近世という時代を身近にひき付けて体感する趣だ。

短冊には古筆の鑑定結果を示す極札（右）が付いていた

ひと言　大家が初学者向けに書いた教科書『古文書学入門』（佐藤進一著）は学問への情熱と気迫がひしひしと伝わる。

（3） 雑誌『社会教育』（一般財団法人日本青年館　発行） 2016年1月号（835号）

「プラチナ社会の動向（2）シニアボランティアのちから
～江戸博友の会：古文書解読活動の快挙が伝えるもの～」で、
町方書上翻刻プロジェクトの活動が詳しく紹介されました。

実践報告

シニアボランティアのちから
～江戸博友の会：古文書解読活動の快挙が伝えるもの～

文化ボランティアコーディネーター　大久保邦子

はじめに

男性も女性も平均寿命が80歳をこした(注1)。定住えや子育てを終えても自由時間が20年や30年はたっぷりある。個人差はあるというものの、体力・知力、それに好奇心もまだまだ旺盛…そんなシニア男女が確実にふえている。

ところで、国公立大学などの博物館や図書館などでは、手つかずの資料や膨大な標本が眠っており、放っておくとたまるいっぽうという現実がある(注2)。いっぽう、学芸員などの職員は予算の削減で年々減るばかり…。この両者の事情がかみ合えば問題は解決するはずなのに、なかなかそう簡単にいかないのが現実である。

そんな状況のなか、このたび、とびきりの快挙が実現した。江戸東京博物館（通称：江戸博）友の会の翻刻プロジェクト活動で、江戸期の研究には貴重な膨大な資料を完成させたのだ。

本稿ではその取り組みを紹介するとともに、なぜそれが実現したのか、成功の秘訣は何なのかを、資料や関係者の証言などを参考にしながら考えてみる。

1. 江戸博ボランティアと〈友の会〉ボランティア活動

（1）江戸博のボランティア

通常、江戸博ボランティアといえば、博物館の展示物ガイドボランティアが有名で、日本人にはもちろん、外国人にも人気がある。ガイドは日本語、英語、中国語、ハングル語など多彩。江戸・東京の日本の文化芸術を外国語で説明する活動が魅力で、チャレンジするシニアが多い。この他、着物の着付けやお茶席など体験教室のふれあい活動もあり、総勢約250名のボランティアが活躍する。

（2）江戸東京博物館友の会

ところで江戸博には、江戸博ボランティアとは別組織の、博物館友の会の〝ボランティア〟活動がある。友の会は、

江戸東京博物館（写真：武笹和夫）

14 今後の課題

友の会は20周年を迎え、設立当時のメンバーも少なくなってきました。これからは、当時をよく知らない会員で運営していくことになります。友の会規約に、「友の会は、江戸東京の歴史と文化を振り返り、先人の営みを知り、未来の東京を考える人々の自主的な集まりである。会員は主体的にかつ相互に学び、創造し、交流するとともに、博物館と連携して、地域文化の向上に寄与することを活動の目的とする」とあります。この目的を念頭に置いて、活動を継続、発展させていきたいと思います。

江戸東京博物館は、大規模改修工事に伴い令和４年４月１日～令和７年度中（予定）休館します。友の会は、活動を一部除いて休止します。そのため、継続してきた各種活動の継承が難しくなる面も多いと思われるため、その対策も必要になります。

以下に、取り組むべき課題を列挙します。

- **三部会員の維持増強**
- **会員増への取り組み**
- **友の会活動のマニュアル化**
- **催事申し込みなどのIT活用**
- **参加費の支払いのIT活用**
- **友の会会費の納入方法の多様化**
- **現役世代も参加しやすい友の会活動の模索**
- **江戸東京博物館との協力関係の強化**

あ と が き

令和２年から令和３年３月まで、新型コロナウイルスの感染拡大し、未だ終息の目途が立っていません。友の会活動は、催事の中止や延期など、かつてない影響を受けました。記録を振り返ると、そのことがよく確認できます。また、令和４年４月から江戸東京博物館が大規模改修工事に入り、友の会活動がダウンします。現在、休館中も会員相互の交流ができないか模索しています。本格的に活動を再開できるのは、令和８年ごろになります。そのため、次の「友の会のあゆみ」は「30年のあゆみ」になりそうです。

三部会は、新しい人に引き継ぎながら、会員の皆さまに多くの交流の場を提供できるよう活動を継続していきます。

『友の会20年のあゆみ』PDF版は、友の会ホームページに掲載いたします。こちらも、ご活用いただければ幸いです。

令和３年３月　　江戸東京博物館友の会副会長（広報部会長）　前田太門

役員会一同、広報部会一同

友の会20年のあゆみ

令和３年(2021)４月１日発行

編集・制作・発行：江戸東京博物館友の会

〒１３０－００１５
東京都墨田区横網１－４－１　江戸東京博物館内
（電話）０３－３６２６－９９１０